

『篆隸萬象名義』における俗字の研究(1)

—後漢の隸変字から魏晋の草書の楷書化まで—

大柴清圓

はじめに	四、行書
一、俗字の定義	五、各項の解説
二、隸変の俗字	(一)、簡略化された俗字
(一)、簡略化された俗字	(二)、複雑化された俗字
(二)、複雑化された俗字	(三)、混同された俗字
(三)、混同された俗字	(四)、同化された俗字
(四)、同化された俗字	(五)、位置が移動された俗字
(五)、位置が移動された俗字	(六)、草書の楷書化された俗字
三、草書の楷書化された俗字	(七)、行書

はじめに

『篆隸萬象名義』(以下『萬象名義』と略す)は弘法大師によって編纂されたわが国最古の字書である。現存する唯一の伝本である高山寺所蔵本は平安時代の鳥羽二年(1114)に書写され、現在では国宝に指定されている。我々が『萬象名義』を紐解くとき、その多くの文字を見慣れないことにより、往々にしてそれらを誤字であると判断する。確かに『萬象名義』の中には数多くの誤字が存在する。しかし同時にその中には現在では使われなくなったが、平安時代の当時には日常的に使われていた俗字も数え切れないほど存在しているのである。我々がこの俗字と誤字を見分けられないがために『萬象名義』を読解することができず、その結果『萬象名義』は今日でも弘法大師全集の中で唯一影印本のまま活字化されずにいる。

筆者は宗祖の編纂したわが国最古のこの字書を現代に復活させるべく、中国中山大学中文系博士課程において文字学を修め、現在『萬象名義』における俗字をほぼ把握することができるようになった。『萬象名義』における俗字を把握することが可能になったため、それに伴って誤字の判断ができるようになった。その結果、一部の古文、籀文、篆文、異体字を除き、基本的に『萬象名義』を活字化することに成功した。筆者はすでに『萬象名義』を全て打ち出してデータ化し終えた。近いうちにその活字校定本を世に問うつもりである。『萬象名義』の俗字はあまりにも多いため、紙面の制限上その一々を注において説明することは不可能であり、また字引

としての一般の使用用途としてはその必要もないであろう。よって本論文はのちに提出する活字本に先立って『萬象名義』の俗字の分析を行い、専門家のためにその根拠を示そうとするものである¹。

また『萬象名義』における古文と籀文の隸定²や異体字の中にも俗字化されたものが多い。ゆえにこれらの字体を正確に認識するためにも、先ず俗字の知識を身につけることが必要となるのである。

一、俗字の定義

俗字とはいったい何を指すのか？孔仲温氏は俗字の性格を四つに分類した。すなわち(1)相対的、(2)民間的、(3)卑近的、(4)時代的、である。この四つの性格の具体的な意味は以下のごとくである。

- (1) いわゆる相対的とは、俗字が一種の正字の字体に相対するものであることを指す。
- (2) いわゆる民間的とは、俗字が通常民間に流行し、平民が日常使用する字体であることを指す。
- (3) いわゆる卑近的とは、俗字が一般的に民間で流行する簡易文字であり、その使用対象と範囲は日常生活の細々とした普通の事務であり、官僚の正式文書や文人学者の格式の高い正字とは異なり、文字の構成上簡易かつ卑近であり、あまり文字の偏旁の構造に合わないものを指す。
- (4) いわゆる時代的とは、いかなる一時代も自ずとその時代の俗字を持ち、古代の“俗”もあるいは今日の“正”に変わるかも知れず、今日の“俗”も未来の“正”に変わらないとも限らないことを指す。故に古と今が定まらないように、正と俗の概念も定まらないのである³。

『干禄字書』に拠れば、正字とは『説文解字』（以下『説文』と略す）などに根拠を持つ文字のことである。ただ『説文』の小篆を隸定した文字のみを用いるのでは、画数が多く煩雑であるので、日常の事務を効率よく行うには、孔氏が(3)で言うように簡易な文字が必要となる。故に顔元孫は『干禄字書』において通字と俗字が正字

¹ なお本論文に続いて魏晋から隋唐までの楷書の俗字と、付録の『萬象名義』俗字表ならびに部首索引を発表する予定である。

² 楷書化したことを言う。

³ 孔仲温『玉篇俗字研究』：27-31頁。

と平等の地位であることを認め、実際の需要に見合うようにした⁴。よって正字とは基本的に『説文』の小篆の構造と等しい隸定された楷書であると認識することができる。また孔氏は張涌泉氏の『漢語俗字研究』の俗字に関する定義⁵を挙げ、さらに以下のごとく言う。

もし『説文』の小篆を一時の正字の代表として、小篆以外の古文、籀文、奇字、俗体をみな俗字と見なさなければならぬなら、その中で籀文は周王の時に属する規範の字体であり、時代は小篆よりやや早くなる。(中略)全ての文字の発展形勢上、民間に流行して平民が日常的に使う民間的な、字の構造が簡易で根拠のない卑近性を兼ね備えないように見える籀文を個人的には俗字と見なすことは困難である⁶。

上述の俗字の四つの性質によって考えれば、古文と籀文などの古文字を俗字の範疇に入れることはできないであろう。現代の古文字学概念から言えば、甲骨文、金文、戦国文字のような秦以前の文字を古文字と定め、隸書、草書、楷書、行書などの秦以後の字を今文字と定め、両者の間に介する秦代の文字(秦隸、小篆)を近古文字と定める⁷。1114年に完成した高山寺本『萬象名義』にとってすれば、商・周・戦国時代の古文字も、それよりもやや早い小篆も共に“正字”である。本論は孔氏の分類法に従い、俗字の範囲を隸定後に作られた文字に限定する。すなわち古文並びに籀文はもとより、小篆もその範囲に含めない。ただし、隸定の古文と隸定の籀文の俗字化された字はその中に含める。時代的な区分から言えば、およそ後漢以降となる。

本論は小篆の字の構造を変えずに隸定したものを“隸定字”と呼び、隸定字をさらに変化させた字を“隸変字”と呼ぶ。例えば、小篆の福は福に作り、「景北海碑陰」の隸定字は 𠃉𠃊に作り、「魯峻碑陰」の隸変字は 𠃉𠃊 (一画増える)に作る。

隸定字とはすなわち正字に等しい。隸変字とは正字の偏と旁とを第一次的に改変した字のことである。隸定字がなく隸変字しかない字も存在する。例えば、小篆の京の字は 𡩇に作るが、「韓勅碑」の京の字の隸変は 京⁸ (一画増える)に作り、隸

⁴ 「自改篆行隸、漸失本真。若総拋『説文』、便下筆多礙。当去泰去甚、使輕重合宜。(中略)具言俗、通、正体。(中略)所謂俗者、例皆淺近、唯籍帳文案、卷契藥方、非涉雅言、用亦無爽。倘能改革、善不可加。(中略)所謂正者、並有憑拠、可以施著述文章、對策碑碣、將為允當。」(『顏真卿干祿字書』: 6-11頁)。

⁵ 「凡是區別於正字的異體字，都可以認為是俗字。俗字可以是簡化字，也可以是繁化字；可以是後祓字，也可以是古體字。」(張涌泉『漢語俗字研究』: 5頁)。

⁶ 孔仲溫『玉篇俗字研究』: 32-33頁。

⁷ 『古文字学綱要』3頁。




⁸ 『隸辨』63頁。

書の中には“京”に作る隸定字が存在しない。楷書の様々な変形字は隸変字（第一次的な偏と傍の改変）を楷書化した後にさらに改変したもの（第二次的な偏と傍並びに字形の改変）である。したがって俗字とは具体的に言うならば、後漢の隸変字、魏晉の草書の楷書化した字、魏晉南北朝隋唐の楷書の様々な変形字のことであると言える。このように正字と俗字を定義するのが妥当であろう。

本論は基本的に黄征氏の俗字の分類方法に従い、『萬象名義』の俗字を以下のごとく帰納させる⁹。

- (1) 簡略化された俗字：正字よりも画数が減った俗字。本論では画数が同じでも一画一画が正字よりも短くなった俗字も簡略化された俗字に含める。
- (2) 複雑化された俗字：正字よりも画数が増えた俗字。本論では画数が同じでも一画一画が正字よりも長くなった俗字も複雑化された俗字に含める。
- (3) 混同された俗字：二つの字の部首、偏と傍あるいはその一部分が常に混同して区別がなくなった俗字。
- (4) 同化された俗字：上下、左右、内外の偏と傍あるいはその一部分の影響を受けて同化して形成された俗字。
- (5) 位置の移動された俗字：偏と傍あるいはその一部分が移動することによって形成された俗字。
- (6) 草書の楷書化された俗字：草書を楷書の筆跡で書く際に依然として草書の筆跡の特徴を留めている俗字。

そのほかに(7) 行書を加える。その筆跡は楷書ではないが、現代の通用字ともまた異なる。それらは当時通用していた“正字”であり、現代人にとっては俗字である。

本論は時代的な違いから俗字を三つの段階に分ける。すなわち(1) 隸変字(後漢)、(2) 草書の楷書化(魏晉)、(3) 楷書(魏晉から隋唐まで)である。(1) 隸変字と(3) 楷書はそれぞれに上の七種の俗字が存在する。更に、多くの俗字はこれら七つの中の単一な俗字化ではなく、二三回の俗字化の過程を経て形成された多層的な俗字である。例えば、『萬象名義』の中所出の囧(因の俗字)は、隸定では  (「白石神君碑」) であり、隸変では中心が工の字に混同されて  (「尹宙碑」) となり、楷書では簡略化されて  (魏「孝文帝吊比干文」) となる。よってこの囧の字は隸書において(3)混同され、また楷書において(1)簡略化された俗字である。

⁹ 『敦煌俗字典』20-33頁。

二、隸変の俗字

以下、『萬象名義』所出の隸変字を分析する。『萬象名義』の俗字は実にその多くが遙か後漢あるいは魏晉の時代にまで遡るのである。各項の内容説明は「五、各項の解説」にまとめて附した。対照されたい。イコールで結ぶ左辺は『萬象名義』所出の俗字を、右辺は正字または通用字（の一部）を表す。

(一)、簡略化された俗字

1. 眉 = 眉 (付録「俗字表1」参照¹⁰)

小篆	隸定	隸変		楷書
眉	眉 「魏元丕碑」	眉 「孔彪碑」	眉 「張公神碑 ¹¹ 」	眉 唐「昭仁寺碑 ¹² 」

2. 沝 = 沝 (付録「俗字表2」参照)

小篆	隸定		隸変	
沝	沝 「夏承碑」	流 「魯峻碑」	沝 「衡方碑」	沝 「魯峻碑 ¹³ 」

3. 聘 = 聘 (付録「俗字表3」参照)

小篆	隸定	隸変	
聘	聘 「孔彪碑」	聘 「樊敏碑」	聘 「史晨奏銘 ¹⁴ 」

¹⁰ 紙数の都合上、付録の「俗字表」は別の機会にまとめて発表する。なお「俗字表」の番号は、付録のそれと対応する。

¹¹ 『隸辨』14頁。

¹² 『中国書法大字典』1003頁。

¹³ 『隸辨』72頁。

¹⁴ 『隸辨』154頁。

4. 厶=口 (付録「俗字表 4, 5, 7, 8」参照)

小篆	隸定	隸変
	 「魯峻碑」	 「劉熊碑 ¹⁵ 」
	(讓)	 「北海相景君銘」 「曹全碑 ¹⁶ 」
	(說)	 「華山廟碑」 「劉熊碑 ¹⁷ 」
	(鉛)	 「張納碑 ¹⁸ 」

5. 垂=坐 (付録「俗字表 9」参照)

小篆	隸定	隸変
	 「夏承碑」	 「鄭固碑」 「武榮碑 ¹⁹ 」

6. 夨=失 (付録「俗字表 10」参照)

小篆	隸定	隸変
	 「北海相景君銘」	 「孔彪碑 ²⁰ 」 (夨)「石經論語殘碑 ²¹ 」

7. 疋=正 (付録「俗字表 11」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	 「尹宙碑」	 「夏承碑」 「孔彪碑 ²² 」	 北魏「雀敬邕墓誌 ²³ 」

¹⁵ 『隸辨』 40 頁。

¹⁶ 『隸辨』 151 頁。

¹⁷ 『隸辨』 176 頁。

¹⁸ 『隸辨』 46 頁。

¹⁹ 『隸辨』 8 頁。

²⁰ 『隸辨』 167 頁。

²¹ 『隸辨』 168 頁。

²² 『隸辨』 154 頁。

²³ 『隸辨』 804 頁。

8. 止 = 止 (付録「俗字表12」参照)

小篆	隸定	隸変
	止 「夏承碑」	止 「曹全碑」 止 「魯峻碑 ²⁴ 」 𠄎 (恥) 「尹宙碑 ²⁵ 」 𠄎 (武) 「孔宙碑 ²⁶ 」

9. 龍 龍 = 龍 (付録「俗字表13, 14」参照)

小篆	隸変	楷書
	隴 「曹全碑」 龍 「韓勅碑」 隴 「華山亭碑 ²⁷ 」 龍 漢 「白石神君碑 ²⁸ 」	龍 (龍) 「妙法蓮花經講經文 ²⁹ 」

10. 曹 = 曹 (付録「俗字表 15」参照)

小篆	隸定	隸変
	曹 「校官碑」	曹 「柳敏碑」 曹 「夏承碑」 曹 「孔蘇碑 ³⁰ 」

11. 輕 = 輕 (付録「俗字表 16」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	輕 「老子銘」	輕 「校官碑」 輕 「北海相景君銘 ³¹ 」	輕 魏 「兗州刺史元弼墓誌 ³² 」

²⁴ 『隸辨』 87 頁。

²⁵ 『隸辨』 89 頁。

²⁶ 『隸辨』 92 頁。

²⁷ 『隸辨』 82 頁。

²⁸ 『隸辨』 4 頁。

²⁹ 『敦煌俗字典』 252 頁。

³⁰ 『隸辨』 52 頁。

³¹ 『隸辨』 66 頁。

³² 『碑別字新編』 306 頁。

12. 求=求 (付録「俗字表 17」参照)

小篆	隸定	隸変
𠄎	求 「華山廟碑 ³³ 」	逑 「劉寬碑陰 ³⁴ 」 救 (救) 「郇閣頌 ³⁵ 」
𠄎		𠄎 「韓勅碑」 𠄎 (𠄎) 「史晨奏銘 ³⁶ 」

13. 米=采 (付録「俗字表 18」参照)

小篆	隸定あるいは隸変
𠄎	𠄎 「白石神君碑」 𠄎 (𠄎) 「楊統碑」 𠄎 (𠄎) 「孔彪碑 ³⁷ 」

14. 豕=豕 (付録「俗字表 19」参照)

小篆	隸定あるいは隸変	楷書
豕	豕 (豕) 「校官碑」 豕 (豕) 「韓勅碑 ³⁸ 」	豕 (豕) 「雙恩記 ³⁹ 」

15. 冑=胥 (付録「俗字表 20」参照)

小篆	隸定	隸変
冑	冑 「石丞尚書殘碑」	冑 「桐柏廟碑」 冑 「韓勅碑 ⁴⁰ 」

16. 目=白 (付録「俗字表 21」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
目	目 「樊安碑」	目 「北海相景君銘 ⁴¹ 」	目 魏 「房悦墓誌 ⁴² 」

³³ 『隸辨』 74 頁。

³⁴ 『隸辨』 75 頁。

³⁵ 『隸辨』 155 頁。

³⁶ 『隸辨』 92 頁。

³⁷ 『隸辨』 37 頁。

³⁸ 『隸辨』 166 頁。




³⁹ 『敦煌俗字典』 570 頁。

⁴⁰ 『隸辨』 19 頁。





⁴¹ 『隸辨』 13 頁。

⁴² 『碑別字新編』 142 頁。






17. 孛 = 孛 (付録「俗字表22」参照)

小篆	隸變	
	 「魯峻碑」	 「劉熊碑 ⁴³ 」






18. 畱 = 留 (付録「俗字表 23」参照)

小篆	隸變	楷書
	 「張遷碑」	 「孔蘇碑 ⁴⁴ 」
		 (留) 「黃仕強伝 ⁴⁵ 」





19. 幾 = 幾 (付録「俗字表24」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
	 (幾) 「費鳳碑」	 「高彪碑」	 「魏受禪表 ⁴⁶ 」
			 (機) 隋智永「千字文 ⁴⁷ 」

20. 舍 = 今 (付録「俗字表25」参照)

小篆	隸變			楷書
	 「衡方碑」	 「魏孔羨碑」	 「武榮碑 ⁴⁸ 」	 「大唐九成宮醴泉銘 ⁴⁹ 」

21. 念 = 念 (付録「俗字表 26」参照)

小篆	隸定	隸變
	 (念) 「華山廟碑 ⁵⁰ 」	 「史晨奏銘 ⁵¹ 」
		 「孫叔敖碑 ⁵² 」

43 『隸辨』172頁。

44 『隸辨』72頁。

45 『敦煌俗字典』251頁。

46 『隸辨』18頁。

47 『王羲之書法字典』339頁。。

48 『隸辨』78頁。

49 『碑別字新編』33頁。

50 『隸辨』77頁。

51 『隸辨』158頁。

52 『隸辨』159頁。

22. 非=韭 (付録「俗字表 27」参照)

小篆	隸定	隸変
	 (識)「修華嶽碑 ⁵³ 」 (識)「老子銘 ⁵⁴ 」	 (識)「韓勅碑 ⁵⁵ 」 (識)「郭旻碑 ⁵⁶ 」

23. 業=業 (付録「俗字表 28」参照)

小篆	隸変
	 「劉寬碑 ⁵⁷ 」 「魏上尊號奏」 「楊震碑 ⁵⁸ 」

24. 高=喬 (付録「俗字表 29」参照)

小篆	隸変	楷書
	 「三公山碑」 「陳穉碑 ⁵⁹ 」	 (橋)隋「楊秀墓誌 ⁶⁰ 」

25. 哉=哉 (付録「俗字表 31」参照)

小篆	隸変	楷書
	 「夏承碑」 「北海相景君銘」 「曹全碑 ⁶¹ 」	 唐「孔子廟堂碑 ⁶² 」

26. 享=享 (付録「俗字表32」参照)

小篆	隸変
	 「郭旻碑」 「修華嶽碑」 「孫叔敖碑 ⁶³ 」

53 『隸辨』80頁。

54 『隸辨』158頁。

55 『隸辨』158頁。

56 『隸辨』79頁。

57 『隸辨』166頁。

58 『隸辨』161頁。

59 『隸辨』50頁。





60 『碑別字新編』353頁。

61 『隸辨』29頁。





62 『碑別字新編』83頁。

63 『隸辨』179頁。





27. 亩 = 衷 (付録「俗字表 33」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
	 「孫叔敖碑」	 「韓勅喪碑 ⁶⁴ 」	 (惠)「御注金剛般若波羅蜜經宣演卷上 ⁶⁵ 」




28. 夾 = 亥 (付録「俗字表34」参照)

小篆	隸定	隸變
	 「富春丞張君碑 ⁶⁶ 」	 「曹全碑 ⁶⁷ 」  (該)「魏受禪表 ⁶⁸ 」




29. 乚 = 乙 (付録「俗字表 35」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
	 「桐柏廟碑」	 「孔宙碑 ⁶⁹ 」	 清「張槐生墓誌 ⁷⁰ 」

30. 亘 = 宜 (付録「俗字表 36」参照)

小篆	隸變
	 「史晨奏銘 ⁷¹ 」  「唐扶頌 ⁷² 」

31. 卑 = 卑 (付録「俗字表 37」参照)

小篆	隸定	隸變
	 「尹宙碑」	 「華山亭碑 ⁷³ 」

64 『隸辨』47頁。

65 『敦煌俗字典』168頁。

66 『隸辨』97頁。

67 『隸辨』97頁。

68 『隸辨』29頁。

69 『隸辨』169頁。

70 『碑別字新編』1頁。

71 『隸辨』10頁。

72 『隸辨』195頁。

73 『隸辨』10頁。

32. 鬼 = 鬼 (付録「俗字表 38」参照)

小篆	隸変	楷書
鬼	鬼 「曹全碑 ⁷⁴ 」	鬼 「洞淵神咒經・斬鬼品 ⁷⁵ 」

33. 冀 = 冀 (付録「俗字表 39」参照)

小篆	隸変	楷書
冀	冀 「夏承碑」 冀 「景北海碑陰 ⁷⁶ 」	冀 東晋王羲之「淨化閣帖 ⁷⁷ 」

34. 聶 = 聶 (付録「俗字表 40」参照)

小篆	隸変
聶	聶 「楊著碑陰」 聶 (攝) 「周憬功勳銘 ⁷⁸ 」

35. 藏 = 藏 (付録「俗字表 41」参照)

小篆	隸変	楷書
藏	藏 「孫叔敖碑」 藏 「孔耽神祠碑 ⁷⁹ 」	藏 「太上洞玄靈宝妙經衆篇序章 ⁸⁰ 」

36. 電 = 電 (付録「俗字表 42」参照)

小篆	隸定	隸変
電	電 (蠅) 「楊震碑 ⁸¹ 」	電 「電池五瑞碑 ⁸² 」

⁷⁴ 『隸辨』 90 頁。

⁷⁵ 『敦煌俗字典』 142 頁。

⁷⁶ 『隸辨』 124 頁。

⁷⁷ 『王羲之書法字典』 91 頁。

⁷⁸ 『隸辨』 194 頁。

⁷⁹ 『隸辨』 62 頁。

⁸⁰ 『敦煌俗字典』 37 頁。

⁸¹ 『隸辨』 69 頁。

⁸² 『隸辨』 98 頁。

37. 表 = 卓 (参照附「俗字表 43」参照)

小篆	隸定	隸变
𠄎	遠 「桐柏廟碑」	遠 「武米碑 ⁸³ 」

38. 嬰 = 嬰 (付録「俗字表44」参照)

小篆	隸定	隸变	楷書
嬰	嬰 「老子銘」	纓 (嬰) 「冀州從事郭君碑 ⁸⁴ 」	嬰 唐 「魏邈妻趙氏墓誌 ⁸⁵ 」

39. 乇 = 屯 (付録「俗字表 46」参照)

小篆	隸定	隸变	楷書
純	純 「魯峻碑」	純 「景北海碑陰 ⁸⁶ 」	純 (純) 「開蒙要訓 ⁸⁷ 」

40. 𠄎 = 𠄎 (付録「俗字表 47」参照)

小篆	隸定	隸变	楷書
盜	盜 「羊竇道碑 ⁸⁸ 」	盜 「景北海碑陰 ⁸⁹ 」	洪 魏 「司馬景色和妻墓誌 ⁹⁰ 」

41. 或 = 或 (付録「俗字表 48」参照)

小篆	隸定	隸变
或	或 「尹宙碑」	或 「白石神君碑 ⁹¹ 」

83 『隸辨』99頁。

84 『隸辨』65頁。

85 『碑別字新編』378頁

86 『隸辨』33頁。

87 『敦煌俗字典』411頁。





88 『隸辨』149頁。

89 『隸辨』149頁。




90 『碑別字新編』96頁。

91 『隸辨』191頁。





42. 本 = 卒

小篆	隸変		
	 「北海相景君銘」	 「孔鮒碑」	 「郭仲奇碑 ⁹² 」



43. 𠂔 = 谷

小篆	隸定	隸変
	 「魏孔羨碑」	 「北海相景君銘 ⁹³ 」





44. 免 = 逸

小篆	隸変		
	 「衡方碑」	 「郭旻碑」	 「劉熊碑 ⁹⁴ 」

45. 央 = 央

小篆	隸変
	 「張公神碑 ⁹⁵ 」

46. 𦉳 = 网

小篆	隸定	隸変
	 「三公山碑」	 「蔡湛頌」  「曹全碑 ⁹⁶ 」

⁹² 『隸辨』170頁。

⁹³ 『隸辨』165頁。

⁹⁴ 『隸辨』168頁。

⁹⁵ 『隸辨』60頁。

⁹⁶ 『隸辨』110頁。

47. 夏 = 復

小篆	隸定	隸変
復	復 「楊統碑」	復 「楊著碑 ⁹⁷ 」

(二)、複雑化された俗字

1. 口 = 𠂔 (付録「俗字表 49,50」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
弘	弘 「華山廟碑」	弘 「孔蘇碑」 弘 「曹全碑 ⁹⁸ 」	弘 隋 「范安貴墓誌 ⁹⁹ 」
雄	雄 「魯峻碑」	雄 「孔蘇碑」 雄 「曹全碑 ¹⁰⁰ 」	雄 北魏 「李壁墓誌 ¹⁰¹ 」
晉	晉 「老子銘」	晉 「苑鎮碑」 晉 「馮緄碑」 晉 「張遷碑 ¹⁰² 」	晉 唐 「不空碑 ¹⁰³ 」

2. 𠂔 = 𠂔 (付録「俗字表51」参照)

小篆	隸変
過	過 「華山廟碑」 過 「陳球後碑」 過 「王純碑 ¹⁰⁴ 」
骨	骨 「魏上尊號奏」 骨 「靈臺碑 ¹⁰⁵ 」

⁹⁷ 『隸辨』 161 頁。
⁹⁸ 『隸辨』 70-71 頁。
⁹⁹ 『碑別字新編』 14 頁。
¹⁰⁰ 『隸辨』 2 頁。
¹⁰¹ 『中国書法大字典』 1476 頁。
¹⁰² 『隸辨』 140 頁。
¹⁰³ 『碑別字新編』 124 頁。
¹⁰⁴ 『隸辨』 150 頁。
¹⁰⁵ 『隸辨』 172 頁。

3. 血 = 血 (付録「俗字表 52」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	「劉熊碑」	「造橋碑」 「張遷碑 ¹⁰⁶ 」	魏「元挙墓誌 ¹⁰⁷ 」

4. 土 = 土 (付録「俗字表 53」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	「曹全碑」	「衡方碑」 「白石神君碑 ¹⁰⁸ 」	王羲之「澄清堂帖 ¹⁰⁹ 」

5. 羊(羊) = 羊(辛) (付録「俗字表 54」参照)

小篆	隸定	隸変
	「祝睦碑」	「曹全碑」 「孔觶碑 ¹¹⁰ 」

6. 今 = 今 (付録「俗字表 55」参照)

小篆	隸定	隸変
	「華山廟碑」	「郟閣碑」 「老子銘 ¹¹¹ 」

7. 聿 = 聿 (付録「俗字表56」参照)

小篆	隸定	隸変
	「孔宙碑」	「衡方碑」 「校官碑 ¹¹² 」

¹⁰⁶ 『隸辨』170頁。

¹⁰⁷ 『碑別字新編』30頁。

¹⁰⁸ 『隸辨』94頁。

¹⁰⁹ 『中国書法大字典』289頁。

¹¹⁰ 『隸辨』30頁。

¹¹¹ 『隸辨』77頁。

¹¹² 『隸辨』127頁。

8. 畱 = 畱 (付録「俗字表 57」参照)

小篆	隸定	隸變
畱	畱 「景北海碑陰」	畱 「韓勅碑」 畱 「魯峻碑陰 ¹¹³ 」

9. 京 = 京 (付録「俗字表 58」参照)

小篆	隸變
京	京 「韓勅碑」 京 「華山廟碑 ¹¹⁴ 」

10. 凡 = 瓦 (付録「俗字表59」参照)

小篆	隸變
凡	𠃉 「婁寿碑 ¹¹⁵ 」 𠃉 「魏孔羨碑 ¹¹⁶ 」 𠃉 「武荣碑 ¹¹⁷ 」

11. 囧 = 回 (付録「俗字表 61」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
囧	回 「北海相景君銘」	𠃉 (回) 「張公神碑 ¹¹⁸ 」	迴 東晋王羲之「樂毅論 ¹¹⁹ 」

12. 直直 = 直 (付録「俗字表62」参照)

小篆	隸變
直	直 「石經尚書殘碑」 直 「孔彪碑」 直 「袁良碑 ¹²⁰ 」

¹¹³ 『隸辨』 161 頁。

¹¹⁴ 『隸辨』 63 頁。

¹¹⁵ 『隸辨』 120 頁。

¹¹⁶ 『隸辨』 64 頁。

¹¹⁷ 『隸辨』 45 頁。

¹¹⁸ 『隸辨』 28 頁。

¹¹⁹ 『王羲之書法字典』 228 頁。

¹²⁰ 『隸辨』 186 頁。

13. 々=マ (付録「俗字表 63」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
通	通 「華山廟碑」	通 「韓勅碑 ¹²¹ 」	通 「願文等範本・亡兄弟 ¹²² 」

14. 亢=亢 (付録「俗字表 64」参照)

小篆	隸定	隸変
亢	亢 「議郎元賓碑」	亢 「陳球後碑 ¹²³ 」

15. 𠄎=𠄎

小篆	隸定	隸変	楷書
𠄎	𠄎 「王純碑 ¹²⁴ 」	𠄎 (拔)「衡方碑 ¹²⁵ 」	𠄎 (拔)「老子道德經 ¹²⁶ 」

16. 弄=弄

小篆	隸定	隸変
王	𠄎 (𠄎)「益州太守無名碑 ¹²⁷ 」	王 「史晨奏銘」 王 「楊統碑陰 ¹²⁸ 」

17. 𠄎=𠄎

小篆	隸定	隸変
𠄎	𠄎 「魯峻碑」	𠄎 「孔宙碑」 𠄎 (𠄎)「張納功德敘 ¹²⁹ 」

¹²¹ 『隸辨』4頁。

¹²² 『敦煌俗字典』407頁。

¹²³ 『隸辨』174頁。

¹²⁴ 『隸辨』58頁。

¹²⁵ 『隸辨』174頁。

¹²⁶ 『敦煌俗字典』7頁。

¹²⁷ 『隸辨』120頁。

¹²⁸ 『隸辨』164頁。

¹²⁹ 『隸辨』188頁。

18. 疒=疒

小篆	隸定	隸変
	「華山廟碑」	「雲臺碑 ¹³⁰ 」

(三)、混同された俗字

1. 麦=菱 (付録「俗字表 65」参照)

小篆	隸定	楷書
	「周憬功勳銘」 「韓勅碑 ¹³¹ 」	北魏「牛徽造象記 ¹³² 」

2. 第=第 (付録「俗字表 66」参照)

小篆	隸定	楷書
¹³³	「孔蘇碑」 「魯峻碑 ¹³⁴ 」	「二教論 ¹³⁵ 」

3. 巳=己 (付録「俗字表 67」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	「孔宙碑」 「紀」 「韓勅碑 ¹³⁶ 」	「紀」 「郭輔碑 ¹³⁷ 」	「正名要録 ¹³⁸ 」

4. 巳=巳 (付録「俗字表 68」参照)

小篆	隸変
	「周憬功勳銘」 「修華嶽碑」 ¹³⁹

¹³⁰ 『隸辨』 139 頁。

¹³¹ 『隸辨』 69 頁。

¹³² 『中国書法大字典』 1465 頁。

¹³³ 『説文解字注』 (199 頁) によって補う。

¹³⁴ 『隸辨』 132 頁。

¹³⁵ 『敦煌俗字典』 83 頁。

¹³⁶ 『隸辨』 86 頁。

¹³⁷ 『隸辨』 17 頁。

¹³⁸ 『敦煌俗字典』 178 頁。

¹³⁹ 『隸辨』 159 頁。

5. 步=歩 (付録「俗字表 69」参照)

小篆	隸定	隸変		楷書
	 「費鳳別碑」	 「楊君石門頌」	 「郇閣頌 ¹⁴⁰ 」	 齊「元賢墓誌 ¹⁴¹ 」

6. 曷=曷 (付録「俗字表 70」参照)

小篆	隸定	隸変		楷書
	 「楊著碑」	 「石叵公羊殘碑」	 「唐扶頌 ¹⁴² 」	 (曷)齊「司馬遵業墓誌 ¹⁴³ 」

7. 商=商 (付録「俗字表 71」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	 「袁良碑」	 「楊震碑 ¹⁴⁴ 」	 (商)周「張滿沢妻郝氏墓誌 ¹⁴⁵ 」

8. 民=民 (付録「俗字表72」参照)

小篆	隸定	隸変		楷書
	 「桐柏廟碑」	 「華山廟碑」	 「北海相景君銘 ¹⁴⁶ 」	 隋「曹海凝墓誌 ¹⁴⁷ 」

9. 氏=氏 (付録「俗字表 73」参照)

小篆	隸定	隸変		楷書
	 「孔宙碑」	 「孔鮒碑」	 「韓勅兩側題 ¹⁴⁸ 」	 魏「蘇屯進墓誌 ¹⁴⁹ 」

¹⁴⁰ 『隸辨』194頁。

¹⁴¹ 『碑別字新編』129頁。

¹⁴² 『隸辨』173頁。

¹⁴³ 『碑別字新編』261頁。

¹⁴⁴ 『隸辨』183頁。

¹⁴⁵ 『碑別字新編』405頁。

¹⁴⁶ 『隸辨』33頁。

¹⁴⁷ 『碑別字新編』16頁。

¹⁴⁸ 『隸辨』84頁。

¹⁴⁹ 『碑別字新編』8頁。

10. 氏=氏

小篆	隸定	隸變	楷書
𠄎	𠄎 「劉寬碑」	𠄎 (底) 「唐扶頌 ¹⁵⁰ 」	𠄎 「摩訶摩耶經卷上 ¹⁵¹ 」

11. 旨=旨 (付録「俗字表74」参照)

小篆	隸變
旨	旨 「白石神君碑」 指 「白石神君碑 ¹⁵² 」

12. 朮=木 (付録「俗字表75」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
朮	木 「張公神碑」 沐 「魏上尊號奏」	沐 「楊震碑陰 ¹⁵³ 」	休 (休) 魏 「蘇屯墓誌 ¹⁵⁴ 」

13. 无=无 (付録「俗字表76」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
𠄎	𠄎 「孔宙碑」	𠄎 「史晨後碑」 𠄎 「景北海碑陰 ¹⁵⁵ 」	𠄎 (𠄎) 「正名要錄 ¹⁵⁶ 」

14. 𠄎=𠄎 (付録「俗字表77, 78」参照)

小篆	隸定	隸變
𠄎	𠄎 「北海相景君銘」	𠄎 「劉熊碑」 𠄎 「夏承碑 ¹⁵⁷ 」 𠄎 (𠄎) 「曹騰碑陰 ¹⁵⁸ 」

150 『隸辨』85頁。

151 『敦煌俗字典』82頁。

152 『隸辨』85頁。

153 『隸辨』161頁。

154 『碑別字新編』19頁。

155 『隸辨』127頁。

156 『敦煌俗字典』179頁。

157 『隸辨』80頁。

158 『隸辨』158頁。

15. 從=從 (付録「俗字表 79」参照)

小篆	隸定	隸変		
𠄎	從 「校官碑」	從 「袁良碑」	從 「史晨後碑」	從 「韓勅碑 ¹⁵⁹ 」

16. 甫=甫 (付録「俗字表 80」参照)

小篆	隸定	隸変		楷書
𠄎	博 「魯峻碑」	博 「韓勅碑」	博 「張納功德敘 ¹⁶⁰ 」	博 「啟顏錄 ¹⁶¹ 」

17. 𠄎=𠄎 (付録「俗字表 81」参照)

小篆	隸定	隸変		楷書
𠄎	𠄎 「修華嶽碑」	𠄎 (𠄎) 「樊陽令楊君碑 ¹⁶² 」		𠄎 齊 「石信墓誌 ¹⁶³ 」
𠄎		𠄎 「樊陽令楊君碑」	𠄎 「唐拂頌 ¹⁶⁴ 」	
𠄎		𠄎 「度尚碑」	𠄎 「三公山碑 ¹⁶⁵ 」	𠄎 魏 「元佑墓誌 ¹⁶⁶ 」

18. 眞=眞 (付録「俗字表 82」参照)

小篆	隸変	
眞	眞 「平輿令薛君碑」	眞 「譙敏碑 ¹⁶⁷ 」

¹⁵⁹ 『隸辨』5頁。

¹⁶⁰ 『隸辨』179頁。

¹⁶¹ 『敦煌俗字典』29頁。

¹⁶² 『隸辨』158頁。

¹⁶³ 『碑別字新編』277頁。

¹⁶⁴ 『隸辨』81頁。

¹⁶⁵ 『隸辨』115頁。

¹⁶⁶ 『碑別字新編』81頁。

¹⁶⁷ 『隸辨』30頁。

19. 于干=亏 (付録「俗字表 83, 84」参照)

小篆	隸定	隸变
𠄎	鄂 <small>(鄂)「費汎碑」</small>	鄂 <small>(鄂)「丁魴碑」</small> 鄂 <small>(鄂)「楊淮碑」</small> 鄂 <small>(鄂)「魏呂君碑¹⁶⁸」</small>

20. 雨雨=雨 (付録「俗字表85」参照)

小篆	隸变
灃	灃 <small>「穀阮碑陰」</small> 灃 <small>「冀州從事郭君碑」</small> 蒲 <small>「堯廟碑¹⁶⁹」</small>

21. 雨雨=兩 (付録「俗字表86」参照)

小篆	隸定	隸变
兩	兩 <small>「劉熊碑」</small>	兩 <small>「魏受禪表」</small> 兩 <small>「周憬功勳銘¹⁷⁰」</small>

22. 宀=宀 (付録「俗字表 87」参照)

小篆	隸定	隸变
官	官 <small>「武米碑¹⁷¹」</small>	官 <small>「戚伯著銘¹⁷²」</small>
寵	寵 <small>「孫叔敖碑陰」</small>	寵 <small>「樊安碑¹⁷³」</small>

23. 麻=麻 (付録「俗字表 88」参照)

小篆	隸定	隸变
歷	歷 <small>「郟閣頌」</small>	歷 <small>「衡方碑」</small> 歷 <small>「魏伯廟碑¹⁷⁴」</small>

168 『隸辨』 178 頁。
 169 『隸辨』 101 頁。
 170 『隸辨』 28 頁。
 171 『隸辨』 40 頁。
 172 『隸辨』 41 頁。
 173 『隸辨』 82 頁。
 174 『隸辨』 185 頁。

24. 忞=恩 (付録「俗字表 89」参照)

『萬象名義』所出の恠・慙などの字は、恩の旁を忞に作る。顧藹吉は「按、『説文』作總從糸從恩。諸碑或變恩作忞。碑復省作忞¹⁷⁵。」と言う。隸書において忞に作る字は見られないが、顧氏の説に従うならば、この字は隸変字である。

25. 羊=咩 (付録「俗字表 90」参照)

小篆	隸定	隸変	
𦍋	逆 「郾閣碑」	逆 「白石神君碑 ¹⁷⁶ 」	𦍋(𦍋)「張遷碑」 𦍋(𦍋)「史晨奏銘 ¹⁷⁷ 」

26. 𦍋=建 (付録「俗字表 91」参照)

小篆	隸定	隸変
𦍋	建 「白石神君碑」	建 「北海相景君銘 ¹⁷⁸ 」

27. 勅=敕

小篆	隸定	隸変	
勅		勅 「史晨後碑」	勅 「華山廟碑 ¹⁷⁹ 」
𦍋	整 「華山亭碑」	整 「繁陽令楊君碑」	整 「魏呂君碑 ¹⁸⁰ 」

28. 来束=束 (付録「俗字表 92, 93」参照)

小篆	隸変		楷書
束	束 「梁休碑」	束 「石經魯詩殘碑 ¹⁸¹ 」	束 魏「劉懿墓誌 ¹⁸² 」

¹⁷⁵ 『隸辨』82頁。

¹⁷⁶ 『隸辨』180頁。

¹⁷⁷ 『隸辨』172頁。

¹⁷⁸ 『隸辨』142頁。

¹⁷⁹ 『隸辨』186頁。

¹⁸⁰ 『隸辨』112頁。

¹⁸¹ 『隸辨』188頁。

¹⁸² 『碑別字新編』207頁。

29. 夾=束

小篆	隸變	楷書
	 「魏上尊號奏 ¹⁸³ 」	 魏「吳郡王蕭正表墓誌 ¹⁸⁴ 」

30. 𠂔=𠂔 (付録「俗字表 94」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
	 「劉寬後碑」	 「堯廟碑 ¹⁸⁵ 」	 隋「豆盧寔墓誌 ¹⁸⁶ 」

31. 廷=廷 (付録「俗字表 95」参照)

小篆	隸變	楷書
	 「老子銘」 「鄭固碑 ¹⁸⁷ 」	 東晉「王羲之興福寺斷碑 ¹⁸⁸ 」

32. 刃=刀 (付録「俗字表 96」参照)

小篆	隸定	隸變	楷書
	 「校官碑」	 「桐柏廟碑 ¹⁸⁹ 」	 (契)魏「孝文帝吊比干文字 ¹⁹⁰ 」

33. 刃=办

小篆	隸定	隸變
	 「華山廟碑」	 「桐柏廟碑 ¹⁹¹ 」

183 【隸辨】122頁。

184 【碑別字新編】51頁。

185 【隸辨】129頁。

186 【碑別字新編】224頁。

187 【隸辨】67頁。

188 【王羲之書法字典】225頁。

189 【隸辨】174頁。

190 【碑別字新編】83頁。

191 【隸辨】56頁。

34. 扌才=方 (付録「俗字表 97」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	族「韓勅碑」	族「尹宙碑 ¹⁹² 」	族「正名要録 ¹⁹³ 」
	游「鄭固碑」	游「魯峻碑 ¹⁹⁴ 」	於 (於)王羲之「衆毅論 ¹⁹⁵ 」
	族「孔宙碑」	族「嚴訢碑 ¹⁹⁶ 」	族 魏「北海王元詳造像 ¹⁹⁷ 」

35. 兩=丽 (付録「俗字表 98」参照)

小篆	隸定	隸変
	麗(麗)「宗俱碑」	麗「張遷碑」 麗「張納功德敘 ¹⁹⁸ 」

36. 于=干 (付録「俗字表 99, 100」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	干「衡方碑」	干(刊)「孔宙碑 ¹⁹⁹ 」	干 (肝)「九相觀詩一本・嬰孩相第一 ²⁰⁰ 」

37. 斤=斥(辟)

小篆	隸変
	辟「曹全碑」 辟「魯峻碑陰 ²⁰¹ 」

¹⁹² 『隸辨』161頁。

¹⁹³ 『敦煌俗字典』576頁。

¹⁹⁴ 『隸辨』73頁。

¹⁹⁵ 『王羲之書法字典』297頁。

¹⁹⁶ 『隸辨』90頁。

¹⁹⁷ 『碑別字新編』123頁。

¹⁹⁸ 『隸辨』133頁。

¹⁹⁹ 『隸辨』40頁。

²⁰⁰ 『敦煌俗字典』123頁。

²⁰¹ 『隸辨』183頁。

38. 隹 = 隹 (付録「俗字表 101」参照)

小篆	隸變	楷書
隹	石隹「高彪碑 ²⁰² 」	隹唐「魏法師碑 ²⁰³ 」

39. 𠂔 = 𠂔 (付録「俗字表 102」参照)

小篆	隸變	楷書
𠂔	𠂔(𠂔)「曹全碑 ²⁰⁴ 」	𠂔(𠂔)隋「馮忱妻叱李綱子墓誌 ²⁰⁵ 」

40. 段 = 段 (付録「俗字表 103」参照)

小篆	隸變	楷書
段	段「孔彪碑」 段「劉熊碑 ²⁰⁶ 」	段(假)魏「元襲墓誌 ²⁰⁷ 」

41. 𠂔 = 𠂔

小篆	隸定	隸變
𠂔	𠂔「楊統碑」	𠂔「桐柏廟碑」 𠂔「張公神碑 ²⁰⁸ 」

42. 身 = 耳

小篆	隸定	隸變	楷書
聘	聘「孔彪碑」	聘「陳球後碑 ²⁰⁹ 」	職(職)魏「元悌墓誌 ²¹⁰ 」

202 『隸辨』166頁。

203 『碑別字新編』329頁。

204 『隸辨』158頁。

205 『碑別字新編』283頁。

206 『隸辨』150頁。

207 『碑別字新編』146頁。

208 『隸辨』26頁。

209 『隸辨』154頁。

210 『碑別字新編』414頁。

43. 𠂔 = 又

小篆	隸定	隸変	楷書
𠂔	取 「武梁祠堂」	取 「李翊碑 ²¹¹ 」	取 「大般涅槃經 ²¹² 」

44. 孝 = 考

小篆	隸定	隸変		
孝	考 「夏承碑」	考 「鄭固碑」	孝 「靈臺碑」	考 「北海相景君銘 ²¹³ 」

45. 疒 = 疒

小篆	隸定	隸変
疒	瘵 「婁寿碑」	瘵 「衡方碑 ²¹⁴ 」

46. 悉 = 悉

小篆	隸変	楷書
悉	悉 「帝堯碑 ²¹⁵ 」	悉 齊 「寶泰墓誌 ²¹⁶ 」

²¹¹ 『隸辨』93頁。

²¹² 『敦煌俗字典』331頁。

²¹³ 『隸辨』106頁。

²¹⁴ 『隸辨』79頁。

²¹⁵ 『隸辨』167頁。

²¹⁶ 『碑別字新編』159頁。

47. 𠂇 = 十

小篆	隸定	隸變	楷書
𠂇	博 「魯峻碑」	博 「尹宙碑」 𠂇𠂇 「孫根碑 ²¹⁷ 」	博 魏鍾繇「宣示表 ²¹⁸ 」 協 (協)「正名要錄 ²¹⁹ 」

48. 斗 = 彳

小篆	隸定	隸變
履	履 「鄭固碑 ²²⁰ 」	履 「衡方碑 ²²¹ 」

49. 幸 = 壘

小篆	隸定	隸變
勢	勢 「雍勸關碑」	勢 「高彪碑 ²²² 」

50. 𠂇 = 𠂇

小篆	隸定	隸變
藻	藻 「度尚碑」	藻 「張平碑」 藻 「苑鎮碑 ²²³ 」

²¹⁷ 『隸辨』179頁。

²¹⁸ 『中国書法大字典』202頁。

²¹⁹ 『敦煌俗字典』455頁。

²²⁰ 『隸辨』86頁。

²²¹ 『隸辨』87頁。

²²² 『隸辨』135頁。

²²³ 『隸辨』106頁。

51. 叅 = 參

小篆	隸定	隸変	
	 「楊著碑 ²²⁴ 」	 「北海相景君銘」	 「衡方碑 ²²⁵ 」

(四)、同化された俗字

1. 需 = 需臽 (付録「俗字表 104, 105」参照)

小篆	隸定	隸変	
	 「州輔碑」	 「衡方碑」	 (臽)「虞韻・魯峻碑 ²²⁶ 」

(五)、位置が移動された俗字

1. 彳 = 彳 (付録「俗字表106」参照)

小篆	隸定	隸変	楷書
	 (形)「北海相景君銘碑 ²²⁷ 」	 (周)「張平子碑 ²²⁸ 」	 (影)魏「韓震墓誌陰 ²²⁹ 」

2. 垂 = 垂缶

『萬象名義』は (缺)の字を有し、垂の旁を垂に作る。この字形は唐褚遂良「雁搭聖教序」における缺の字 ²³⁰などの楷書の俗字と一致する。『段注』缺の項は「俗誤作缺。」と言う。また「吳仲山碑」における隸書の缺の字は に作り、顧藹吉は「按、即缺字。變缶為 、與垂相似。俗遂譌垂。佩觿云、『干祿書』以缺字從垂旁、其不典如此者²³¹。」と言う。「景北海碑陰」における垂の字は に作る。この字は「吳仲山碑」における缺の字とよく似る。ゆえにこの垂は混同された隸書の俗字であることがわかる。

²²⁴ 『隸辨』77-78頁。

²²⁵ 『隸辨』78頁。

²²⁶ 『隸辨』21頁。

²²⁷ 『隸辨』67頁。

²²⁸ 『隸辨』48頁。





²²⁹ 『碑別字新編』317頁。

²³⁰ 『中国書法大字典』1121頁。




²³¹ 『隸辨』176頁。朱駿聲『説文通訓定声』泰部・缺の項は「字亦作缺、因誤作缺。」と言う。

三、草書の楷書化された俗字










1. 為=為 (付録「俗字表107」参照)

小篆	隸定	隸変	草書の楷書化
	 「北海相景君銘」	 「鄱閩碑 ²³² 」	 東晋王羲之「集字聖教序 ²³³ 」

2. 央=央 (付録「俗字表 108」参照)

小篆	隸定	草書の楷書化
	 「張公神碑 ²³⁴ 」	 (央)唐褚遂良「王羲之蘭亭序 ²³⁵ 」

3. 𠄎=𠄎 (付録「俗字表 109」参照)

小篆	隸変	草書の楷書化
	 「桐柏廟碑 ²³⁶ 」	 (契)魏「元端墓誌」  (契)齐「韓永義造仏龕銘 ²³⁷ 」  魏「元襲墓誌」
		 (勢)魏「劉玉墓誌 ²³⁸ 」  (勢)東晋王羲之「大觀帖 ²³⁹ 」
		 「集字聖教序 ²⁴⁰ 」  (契)隋「千字文 ²⁴¹ 」

232 『隸辨』8頁。

233 『王羲之書法字典』385頁。

234 『隸辨』60頁。

235 『王羲之書法字典』247頁。

236 『隸辨』174頁。

237 『碑別字新編』83頁。

238 『碑別字新編』234頁。

239 『王羲之書法字典』383頁。

240 『王羲之書法字典』400頁。

241 『王羲之書法字典』454頁。

4. 分=介 (付録「俗字表110」参照)

小篆	隸定	草書の楷書化	
𠂔	𠂔 「校官碑 ²⁴² 」	𠂔 (分)隋智永「千字文 ²⁴³ 」	𠂔 (分)隋智永「千字文 ²⁴⁴ 」

5. 萑=萑 (付録「俗字表111」参照)

小篆	隸定	草書の楷書化	
萑	萑 「魯峻碑」	觀 (觀)東晋王羲之「蘭亭敘」	觀 (觀)東晋王羲之「漢時帖 ²⁴⁵ 」
		觀 (觀)「妙法蓮花経・観世音顯聖図 ²⁴⁶ 」	

6. 弱=弱

小篆	隸定	草書の楷書化	
弱	弱 「北海相景君銘 ²⁴⁷ 」	弱 (敬)東晋王羲之「名臣 ²⁴⁸ 」	弱 隋智永「千字文 ²⁴⁹ 」
		弱 「雙恩記 ²⁵⁰ 」	

7. 𠂔=荒

小篆	隸定	隸辨	草書の楷書化
𠂔	𠂔 「孔宙碑」	荒 「張遷碑 ²⁵¹ 」	𠂔 隋智永「千字文 ²⁵² 」

²⁴² 『隸辨』137頁。

²⁴³ 『王羲之書法字典』498頁。

²⁴⁴ 『王羲之書法字典』46頁。

²⁴⁵ 『王羲之書法字典』525頁。

²⁴⁶ 『敦煌俗字典』138頁。

²⁴⁷ 『隸辨』177頁。

²⁴⁸ 『王羲之書法字典』291頁。





²⁴⁹ 『王羲之書法字典』231頁。

²⁵⁰ 『敦煌俗字典』344頁。


²⁵¹ 『隸辨』61頁。



²⁵² 『王羲之書法字典』503頁。

8. 帝=虎 (付録「俗字表 112」参照)







小篆	隸定	草書の楷書化	
	 「魏上尊號奏 ²⁵³ 」	 (虎)王羲之「大觀帖 ²⁵⁴ 」	 (帝)東晋王獻之「万歳通天進帖 ²⁵⁵ 」

9. 叅=參 (付録 21 頁「俗字表 113」参照)

『萬象名義』所出の參・慘などの字は、參の旁を叅に作る。上方の受は厶と横一画に変わる。この横一画は受における下のふたつの厶が草書で書いた際に、唐・太宗「晋祠銘」における參の字 ²⁵⁶のように、一筆になったものが更に横一画になったものである。





『萬象名義』は  (慘)・ (滲)などの字を有する。この二字は受の旁と横一画をとともに有する。横一画あるいはふたつの厶のどちらかが不要であり、これは高山寺本の誤写であろう。

10. 能=能 (付録「俗字表 114」参照)

小篆	隸定	隸変	草書の楷書化
	 「孔穌碑」	 「桐柏廟碑 ²⁵⁷ 」	 王羲之「集字聖教序」  王羲之「黄庭経 ²⁵⁸ 」  智永「千字文 ²⁵⁹ 」

四、行書

1. 兌=兌 (付録「俗字表115」参照)

小篆	隸定	行書
	 「華山廟碑」  「劉熊碑 ²⁶⁰ 」	 東晋王羲之「集字聖教序 ²⁶¹ 」

253 『隸辨』95 頁。

254 『王羲之書法字典』512 頁。

255 『王羲之書法字典』215 頁。

256 『中国書法大字典』214 頁。

257 『隸辨』71 頁。





258 『王羲之書法字典』482 頁。






259 『王羲之書法字典』483 頁。

260 『隸辨』176 頁。





261 『王羲之書法字典』533 頁。

2. 兗=袞

『萬象名義』は  (袞)・ (兗)などの字を有する。『隸辨』における疑字の項に「曹全碑」の²⁶²があり、顧諱吉は「按、即袞字。疑是以袞為兗。『史記・吳起傳』卒有疾疽者、起為兗之。袞膿即兗疽也。『玉篇』兗有食允、徂袞二切。或亦是同音而借。」と言う。



小篆の兗は隸定して袞となる。この口の旁はムに変わると袞になる。『康熙字典』は「袞、古文袞。」と言う。この袞の字の上方は「曹全碑」のとその字形がよく似る。『萬象名義』のの二字はの旁において中間の允を行書の筆勢で書く。王羲之「集字聖教序」における説の字も²⁶³に作り、これは兄の旁が允に変化した後に行書で書かれたものである。『萬象名義』の二字もこれと同じである。よっては古文の袞に帰納し、また『萬象名義』の二字は隸変字に遡りそして一部が行書化した俗字である。『萬象名義』の二字は顧氏の説の正当性を証明していると言える。

3. 舛=叔 (付録「俗字表116」参照)

小篆	隸定	草書の楷書化・行書	
	 「曹全碑 ²⁶⁴ 」	 唐太宗「淳化閣帖」	 褚遂良「行書千字文 ²⁶⁵ 」

五、各項の解説²⁶⁶

(一) 簡略化された俗字

- 『萬象名義』所出の瑠・鄒などは、眉の旁を眉に作る。この字形は「張公神碑」の眉などの隸変字と一致する。
- 『萬象名義』所出の塗・櫛などは、兗の旁を兗に作る。この字形は「衡方碑」の流などの隸変字と一致する。東晋・王羲之「蘭亭敘」の流の字は²⁶⁷に作り、また『正名要録』の流の字は²⁶⁸に作る。これらは簡略化された隸書を行楷書化したものである。
- 『萬象名義』所出の傳・聘などは、粵の旁を粵に作る。この字形は由の旁の上方が中

²⁶² 『隸辨』197頁。

²⁶³ 『王羲之書法字典』533頁。

²⁶⁴ 『隸辨』162頁。

²⁶⁵ 『中国書法大字典』219頁。

²⁶⁶ 『隸辨』の引用文は、文字の説明ゆえ、繁体字に従う。

²⁶⁷ 『王羲之書法字典』362頁。

²⁶⁸ 『敦煌俗字典』250頁。

の形に変化したものであり、「史晨奏銘」の聘などの隸変字と一致する。

4. 『萬象名義』所出の鞞・戰などにおける單の旁、嬢・鑲などにおける襄の旁、悅・椀などにおける兌の旁、沿・船などにおける合の旁は、みな口の旁をムに作る。この字形は「劉熊碑」の彈、「曹全碑」の讓、「劉熊碑」の説、「張納碑」の鉛などに由来する隸変字である。同様に餌・楫などにおける員の旁を有する字は員に変わる。この字形は「史晨後碑」の員(員)²⁶⁹と同じである。また趨・鞫などにおける句の旁が勾の字に変わる例も見られる。「史晨奏銘」の鉤は穿勾²⁷⁰に作り、これもまたその他の俗字と同じく隸変字にその根拠を求めることができる。小篆の口は隸変の時に三角形に変わり、そして楷書化して魏「金城郡主墓誌」の勾(句)²⁷¹のようにムとなる。三角形がムとなる変化は俗字の弁別が難しい。これはただ隸書の筆勢を楷書で書いたに過ぎないゆえ、この変化を簡略化ともまた複雑化とも言い難い。ムは楷書ではあるが、本論ではこれを隸書の俗字の範疇に含めることとする。仮に隸書の楷書化までその範囲に含めることができないとするならば、『萬象名義』における一切の字は隸書に淵源するとは言えなくなる。なぜなら『萬象名義』は古文字を除いて基本的にみな楷書を用いて書かれているからである。その字の構造が隸書のそれと合致する楷書化された字は隸書に由来すると理解されるべきである。以上により、このムは小篆の四角形が三角形に変わった(楷書化してムとなった)、簡略化された隸書の俗字と考えることができる。

5. 『萬象名義』所出の郵・靈などは、坐の旁を垂に作る。この字形は「武榮碑」の垂などと一致する。坐の字は隸変の時に尪の旁が干の形に変化し、下部の横一画が省略され、底の横一画の両端が縦に上がり山の形になってできたものである。ゆえにこの垂の字は簡略化されまた混同化された隸書の俗字である。

6. 『萬象名義』所出の佚・秩などは、失の旁を失に作る。この字形は「石經論語殘碑」の佚など同一である。

7. 『萬象名義』所出の証・証などは、正の旁を正に作る。この字形は中心の縦一画が右の一点と同化して一点になった簡略化の俗字であり、「孔彪碑」の正などに由来する。この正は往々にして草書と誤解される。例えば東晋の王羲之「黃庭經」は正に作り、同じく「興福寺斷碑」は正²⁷²に作る。しかしこれらは「孔彪碑」の正の字と同じであり、王氏の正の字も実は後漢の隸変字に基づいていることがわかる。

8. 『萬象名義』所出の止・耻などは、止の旁を止に作る。王羲之の「樂毅論」は止²⁷³

²⁶⁹ 『隸辨』47頁。

²⁷⁰ 『隸辨』75頁。

²⁷¹ 『碑別字新編』12頁。

²⁷² 『王羲之書法字典』343頁。

²⁷³ 『王羲之書法字典』343頁。

に作り、この 𠂔 も一見、草書に由来するように思える。しかしこれも正の字と同じように隸変の時に作られた隸書の俗字である。「孔宙碑」の武の字における止の旁が一つの証左である。

9. 『萬象名義』における龍の字は主に二種類の字形に分かれる。龍・聾・隴などの字はこの二種類の字形が共に現れ、例として適当である。例えば、龍 (6.163 ウ²⁷⁴)・龍 (6.163 ウ)、聾 (2.6 オ)・聾 (2.7 ウ)、隴 (6.164 ウ)・隴 (1.35 オ)などは、両者が共に隸変字に由来する簡略化された隸書の俗字である。前者は「韓勅碑」の龍の字と相似し、後者は「白石神君碑」の隴の字と同じである。

10. 『萬象名義』所出の嘈・嘈などは、曹の旁を曹に作る。この字形は「孔廡碑」の曹の字などに伺える隸変字である。『干祿字書』は「曹・曹、上通、下正。」と言い、曹を通字とする。

11. 『萬象名義』所出の脛・壘などは、壘の旁を壘に作る。この字形は壘における(小篆参照)川の真ん中の縦一画が土の旁と繋がってできたものであり、「北海相景君銘」の脛に窺える。



12. 『萬象名義』所出の邨・邨などは、求の旁を求に作る。この字形は「郟閣頌」の救の字などの隸変字に由来する。求の字は求の字の一点を省いてなったのではない。小篆の求は糸に作り、隸定は 求 である。この隸定字の横一画は末尾に達してやや上に曲がっている。これが隸変の際に一方では一点に変わり、一方では横一直線に変わったのである。よって求・求の二字は同じ小篆の糸から変化した異なる二つの隸変字である。『萬象名義』には 邨 (邨)の字があるが、これも求の字と同様に簡略化された隸書の俗字である。

13. 『萬象名義』所出の糶・蕃などは、采の旁を米に作る。この字形は「楊統碑」の番などと一致する。現在通用している番の字は小篆番における真ん中の縦一画における初めの部分が撇いになったものである。しかしこの字形は隸書の中に見られず、隸定の時に采の旁はみな米に作られている。よって蕃の字を隸変字と考えるならば、これは簡略化された隸書の俗字となる。





14. 『萬象名義』所出の琢・逐などは、豕の旁を豕に作る。この字形は「校官碑」の琢の字などと一致する。隸書の中で豕の旁を有する字はみな豕に作る。

15. 『萬象名義』所出の脣・脣などは、脣の旁を脣に作る。この字形は「韓勅碑」の脣などと一致する。『正字通』は「脣、古文脣。」と言い、『説文』の小篆の脣は 脣 に


²⁷⁴ 「6.163 ウ」は『萬象名義』の諸版に統一の頁を示す。すなわち、「第6帖163頁ウラ(オはオモテのこと)」を表す。以下これに準ず。

作る。戦国「秦陶」の胥は ²⁷⁵に作り、戦国・齊「璽彙」の胥は ²⁷⁶に作る。金文にこの字は見られない。ゆえに胥の字は戦国文字に淵源し、漢代に到った後に𠄎の旁が簡略化されて作られたと考えられる。

戦国: 「璽彙」→『説文』: →胥

戦国: 「秦陶」→漢(簡略化): 「朱龜碑」, 「郎中趙荊碑」, 「韓勅碑」→胥

16. 『萬象名義』所出の追・師などは、自の旁を目にする。この字形は「北海相景君銘」の追の字と同じである。

17. 『萬象名義』所出の勃・悖などは、孛の旁を孛にする。この字形は「魯峻碑」の勃などと一致する。孛の字は勃の小篆 における𠄎の部分において、真ん中の縦の一画が短くなり、また上方の左右の二画が点に変わってできたと考えられる。


18. 『萬象名義』所出の留・霽などは、留の旁を畱にする。この字形は「張遷碑」の留と一致する。小篆の畱は隸定して畱となる。ゆえに畱の字は簡略化された隸書の俗字である。

19. 『萬象名義』所出の幾・幾などは、幾の旁を幾にする。この字形は「高彪碑」の幾とよく似る。

20. 『萬象名義』所出の玲・儂などは、今の旁を今にする。この字形は今の下方が「魏孔羨碑」のように下の字に変わった後、下の字の最後に二画が二点に変わってできたものであり、「武榮碑」の含に窺える。

21. 『萬象名義』所出の念・埥などは、今の旁を今にする。この字形は「史晨奏銘」の念などと一致する。顧藹吉は「按、『説文』作念上從今。碑省作今。今俗因之²⁷⁷。」と言う。

22. 『萬象名義』所出の雍・唾などは、韭の旁を非にする。この字形は「郭旻碑」の織などと一致する。

23. 『萬象名義』所出の璞・撲などは、業の旁を業にする。この字形は「劉寛碑」の撲の字などと相似する。小篆の業は に作り、𠄎と𠄎に従う。業の字において最後の横一画とハの形がすなわち𠄎の変形部分に当たる。顧藹吉は「按、『説文』作僕。『五經文字』云、僕經典相承隸省²⁷⁸。」と言う。よって業から変化した業の字は、簡略化された隸書の俗字に属する。

業の字は業から業に変化した後、さらに縦一画の下方が省かれ、ハの形が縦一画と繋がってできたものであり、これも簡略化された俗字である。

²⁷⁵ 『戦国文字編』263頁。

²⁷⁶ 『戦国文字編』263頁。

²⁷⁷ 『隸辨』158頁。

²⁷⁸ 『隸辨』161頁。

24. 『萬象名義』所出の僑・僑などは、喬の旁を高に作る。顧諱吉は「『説文』作橋、從夭折之夭。碑變從犬或從ナ。²⁷⁹⁾」と言う。隸変字の中で喬の旁を有する字はみな「三公山碑」や「陳毳碑」の喬に作り、喬の形に作るものは見られない。
25. 『萬象名義』所出の哉の字は、戔に作る。この字形は「曹全碑」の哉の字など一致する。この字は口の旁が撇いの一画と繋がり、また左上の横一画が省かれてできたものである。
26. 『萬象名義』所出の贛・皞などは、享の旁を享に作る。この字形は「修華嶽碑」の享の字などに由来する。郭の字は隸変の際に、「郭旻碑」の郭の字のように左方の回の旁が口の字に変わり、その後「修華嶽碑」の郭の字のように左方の二つの口の旁が重なって日の形に変化してできたものである。それがさらに簡略化されて一つの口の字になったのが「孫叔敖碑」のそれであり、現在通用している郭の字に他ならない。
27. 『萬象名義』所出の轉・輒などは、𠂔の旁を𠂔に作る。この字形は「韓勅喪碑」の𠂔と一致する。𠂔の字は隸定で𠂔となった後、下方の厶の形が省かれて𠂔になった。
28. 『萬象名義』所出の菱・該などは、亥の旁を 𠂔 に作る。この字形は「曹全碑」の亥の字や「魏受禪表」の該の字などに由来する。亥の字は隸変の際に左辺の短い一画が省かれて 𠂔 となった。
29. 『萬象名義』所出の乙・扈などは、乙の旁をしに作る。この字形は「孔宙碑」の乙と一致する。
30. 『萬象名義』所出の𠂔・𠂔などの字は、宜の旁を宜に作る。この字形は「史晨奏銘」の宜の字や「唐扶頌」の𠂔の字など一致する。顧諱吉は「按、『玉篇』宜。今作宜²⁸⁰⁾。」と言う。
31. 『萬象名義』所出の𠂔・𠂔などは、卑の旁を卑に作る。この字形は「華山亭碑」の卑の字など一致する。
32. 『萬象名義』所出の鬼・瑰などは、鬼の旁を鬼に作る。この字形は「曹全碑」の鬼の字などの隸変字に由来する。鬼の字は隸変の際に上方の一画が省かれて鬼になった。
33. 『萬象名義』は 𠂔 (𠂔) の字を有する。この字形は「景北海碑陰」の冀の字と同じである。顧諱吉は「按、『九脛字樣』云、冀隸省作冀²⁸¹⁾。」と言う。ゆえにこの冀の字は簡略化された隸書の俗字であることがわかる。
34. 『萬象名義』所出の攝・讞などは、聶の旁を聶に作る。この字形は「周憬功勳銘」の𠂔の字など一致する。聶の字は隸変の際に下方の二つの耳の旁が繋がって

²⁷⁹⁾ 『隸辨』50頁。

²⁸⁰⁾ 『隸辨』10頁。

²⁸¹⁾ 『隸辨』124頁。

聶となった。

35. 『萬象名義』所出の藏・鬣などは、藏の旁を蔵に作る。この字形は「孔耽神祠碑」の藏の字などと相似する。藏の字は隸変の際に左辺の部分が省かれて蔵となった。
36. 『萬象名義』所出の寵・繩などは、甗の旁を甗に作る。この字形は「甗池五瑞碑」の甗の字などの隸変字に由来する。甗の字は隸定の後、上方が𠂔に変化し、下方が电に変化して甗となる。
37. 『萬象名義』所出の園・遠などは、袁の旁を表に作る。この字形は「武榮碑」の遠の字などと一致する。袁の字は隸変の際に表に変化したのであり、行草書の楷書化ではない。
38. 『萬象名義』所出の嬰・鄞などは、嬰の旁を嬰に作る。この字形は「冀州從事郭君碑」の嬰の字などと一致する。嬰の字は隸変の際に、嬰の旁の底辺の二画が省かれて作られた。ゆえに嬰の下方は安の俗字（安²⁸²）ではない。安の俗字は簡略化された楷書の俗字であり、嬰の字は簡略化された隸書の俗字である。両者は偶然に字形が等しくなっただけである。
39. 『萬象名義』所出の純・鈍などは、屯の旁を屯に作る。この字形は「景北海碑陰」の純の字などに由来する。『萬象名義』の各字はやや草書に似た筆勢であるが、その字形は隸変字においてすでに現れており、よってこの屯の字は簡略化された隸書の俗字であると言える。
40. 『萬象名義』所出の渡・盜などは、三水を三水に作る。この字形は「景北海碑陰」の盜の字などに由来する。顧藹吉は「按、『説文』盜從次。碑譌從次²⁸³。」と言う。
41. 『萬象名義』所出の域・惑などは、或の旁における口を厶に作る。或の字は隸変の際に、口の字が「白石神君碑」の或の字のように三角形に変わり、その後厶に変わった。
42. 『萬象名義』は **卒** (卒)の字を有し、卒の旁を卒に作る。この字形は「郭仲奇碑」の卒の字などと一致する。顧藹吉は「按、『説文』作卒、上從衣。『玉篇』云、今作卒。」と言い、また「按、碑復省衣為 **卒**。『干祿字書』云 **卒** 通卒²⁸⁴。」とも言う。
43. 『萬象名義』は **欲** (欲)の字を有し、欲の旁における谷を谷に作る。この字形は「北海相景君銘」の欲の字などと一致する。欲の字は隸定の後、左方の二点が繋がって横一画となった。
44. 『萬象名義』は **逸** (逸)の字を有する。この字形は「劉熊碑」の逸の字と等しい。

²⁸² 俗字表 153 参照。

²⁸³ 『隸辨』 149 頁。

²⁸⁴ 『隸辨』 170 頁。

逸の字は隸変の際に一点が省かれたものであり、隸定字は「衡方碑」のように一点があった。

45. 『萬象名義』は **𡗗** (𡗗)の字を有し、央の旁を央に作る。この字形は「張公神碑」の央の字と等しい。現代の通用字は央に作る。しかし小篆の **𡗗** (央) は元々下方の二画が中央の縦一画と繋がっていない。

46. 『萬象名義』は **𦉳** (𦉳)の字と **𦉳** (𦉳)の字を有する。この網の旁は岡に作る。顧諱吉は「三公山碑」の項において「按、『説文』网、或作罔 **𦉳**。変隸作罔網。罔罟之罔即借為罔無之罔。今俗罔專訓。無以網為網罟字²⁸⁵。」と言い、また「曹全碑」の項において「按、『広韻』网俗作罔。」と言う。よって網の字は隸変の際に、すでに「曹全碑」網の字のように罔の字に変わり、メの字も又(俗字のメ)に変わったことがわかる。隸変字の中に罔の字自身は見られないが、「蔡湛頌」の網の字はメが又に変わっていることにより、罔の字も隸変字と考えられる。

47. 『萬象名義』は **𦉳** (𦉳)の字を有する。この字形は「楊著碑」の復の字などと一致する。夏の旁は隸変の際に上方の一画が省かれて夏となった。

(二)、複雑化された俗字

1. 『萬象名義』所出の弘・雄などは、厶の旁を口に作る。この字形は「曹全碑」の弘の字や雄の字などの隸変字と一致する。この字は隸定で三角形になった後、さらに四角形に隸変した、隸書の複雑化された俗字である。

晋の字にも類似した変化がある。『萬象名義』は **𠂔** (𠂔)の字、**𠂔** (𠂔)などの字を有し、晋の旁を晋に作る。この字形は「張遷碑」の晋の字などと一致する。晋の小篆 **𠂔** は隸定で **𠂔** となった後、初めに隸変して晋となり、その後さらに変化して晋となった。よってこの字は簡略化されまた複雑化された隸書の俗字であると言える。

2. 『萬象名義』所出の禍・骨などは、冂の形を冂に作る。この字形は「王純碑」の過の字などに等しい。

3. 『萬象名義』所出の鬲・泚などは、血の旁を皿に作る。この字形は「張遷碑」の恤の字などと一致する。血の字の小篆は **𦉳** に作り、隸定は皿となる。この隸定の中間に一画が増えて皿の字となる。ゆえに皿の字は複雑化された隸書の俗字である。現在通用している血の字は皿の字の横一画をさらに省いてできたものであり、本来は簡略化された俗字である。しかし俗字の定義における(4)の時代的な理由により、血の字は現在ではすでに正字として扱われている。

²⁸⁵ 『隸辨』110頁。

4. 『萬象名義』所出の堂・在などは、土の旁に一点を加えて土に作る。この字形は「衡方碑」の土の字などと一致する。顧藹吉は「土本無點。諸碑土或作土。故加點以別之²⁸⁶。」と言う。ゆえに土の字は土の字と区別するために一点が加えられて土の字になったことがわかる。
5. 『萬象名義』所出の關・辭などは、辛の旁を辛に作る。この字形は「孔龢碑」の辛の字などと一致する。辛の小篆において𠂇の下方の部分を隸定で横一画にしたのが「祝睦碑」の辛の字である。一方隸定で 丿 の形にしたのが「曹全碑」の辛の字である（ただしこの字はすでに横一角が増やされている）。隸書においておよそ辛の旁のある字は、みな辛に作る。この字形が後漢当時の正字であったかもしれない。
6. 『萬象名義』所出の邠・齡などの字は、今の旁を今に作る。この字形は「老子銘」の今の字などと一致する。この字は隸定の後、下方の縦一画が切断されて作られたものである。
7. 『萬象名義』所出の瑋・偉などの字は、韋の旁を「衡方碑」の諱の字のごとく聿に作る。この字は韋の縦一画が上下に通ってできたものである。
8. 『萬象名義』所出の福・壻などは、畱の旁を畱に作る。畱の字は隸定の後、上方に一画が増えて畱となった。「魯峻碑陰」の福の字などに窺える。
9. 『萬象名義』所出の景・璟などは、京の旁を京に作る。この字形は「韓勅碑」の京の字などと一致する。顧藹吉は「『説文』本作京、從高省。象高形。『九脛字樣』云、京作京訛²⁸⁷。」と言う。
10. 『萬象名義』所出の甗・甄などは、瓦の旁を凡に作る。この字形は「婁寿碑」の甗の字などの瓦と等しい。
11. 『萬象名義』所出の廡・壇などの字は、回の旁を囙に作る。この字形は「張公神碑」の囙の字などと等しい。
12. 『萬象名義』所出の埴・殖などの字は、直の旁を直直に作る。この字形は「孔彪碑」の直の字などの隸変字に由来する。直の字は隸変の際に、上方の十の形が鍋蓋に変わり、目の旁における左右の縦線が下に伸びて底の横一画と繋がった。よってこの字は混同されまた複雑化された隸書の俗字である。
13. 『萬象名義』所出の俑・通などの字は、マの旁を々に作る。この字形は「韓勅碑」の通の字などと一致する。
14. 『萬象名義』所出の坑・伉などの字は、亢の旁を亢に作る。この字形は「陳球後碑」の亢の字などの隸変字に由来する。亢の字は隸変の際に、一点が加わって亢となった。

²⁸⁶ 『隸辨』94頁。

²⁸⁷ 『隸辨』63頁。

15. 『萬象名義』は **𠄎** (𠄎)や **𠄎** (𠄎)の字などを有し、𠄎の旁を𠄎に作る。この字形は「衡方碑」の𠄎の字などの隸変字に由来する。顧藹吉は「衡方碑」の項で「按、『説文』拔從𠄎。碑變作𠄎。𠄎諸碑以為𠄎字、與𠄎異²⁸⁸。」と言う。𠄎の字は隸変の際に、一画加わって𠄎となった。よってこの字は複雑化されたあるいは混同された隸書の俗字である。

16. 『萬象名義』は **弄** (弄)の字を有し、王(ぎょく)の旁を一点加えて玉の字に作る。この字形は「史晨奏銘」の玉の字などの隸変字に由来する。『説文』弄(lòng)は「玩也。從井持玉。」と言う。ゆえに弄の字の上方は玉に従っていることがわかる。顧藹吉は「『説文』本作王、三畫正均。『広韻』云、隸加點以別王字²⁸⁹。」と言う。ゆえに玉の字は王の字と区別するために一点が加えられたのであり、よって複雑化された隸書の俗字であることがわかる。

17. 『萬象名義』は **意** (意)と **音** (音)の字を有し、中間の中の形において縦の一画が下方の口の形まで通じて、𠄎の形に作る。この字形は「孔宙碑」の音の字や「張納功德敘」の意の字などの隸変字に由来する。

18. 今は𠄎の旁のみを考察する。『萬象名義』は **廢** (廢)の字を有する。現在の通用字は廢に作る。顧藹吉は「按、廢與廢、古盖通用²⁹⁰。」『説文』廢、從𠄎發聲。」と言う。小篆の字形に従えば、𠄎が隸定であり、𠄎が簡略化された俗字である。当該字は上方に一画加わっており、よってこの字は簡略化されそして複雑化された隸書の俗字であると言える。

(三)、混同された俗字

1. 『萬象名義』所出の凌・慶などの字は、麥の旁を麥に作る。この字形は「韓勅碑」の陵の字などの隸変字に由来する。『広韻』は「俗作麥²⁹¹。」と言う。
2. 今本の『説文』に第の字は存在しない。しかし『段注・竹部』の第の項は「次也。从竹弟。此見『毛詩正義』卷一之一引『説文』。其在弟部、抑竹部、今不可知。要孔衝遠所據、有此篆無疑。俗省弟作第耳²⁹²。」と言う。「孔龢碑」と「魯峻碑」の第の字のように隸変字に第の字があることからこれらの出所があるはずであり、それは『説文』の正字に他ならない。「韓勅碑」の節の字は隸変して **節**²⁹³ になり、「桐柏廟碑」簡の字は

²⁸⁸ 『隸辨』174頁。

²⁸⁹ 『隸辨』164頁。

²⁹⁰ 『隸辨』139頁。

²⁹¹ 『隸辨』180頁。

²⁹² 『説文解字注』199頁。

²⁹³ 『隸辨』174頁。

隷変して𠂔²⁹⁴になる。両者はともに竹冠が草冠にかわっており、よってこれらは上述の第の字が第の字の隷変字であることを証明する。

3. 『萬象名義』所出の妃・記などの字は、己の旁を巳に作る。この字形は「郭輔碑」の妃の字に等しい。『萬象名義』において起・包などの字も巳に従う。一方、現代の通用字はそれぞれ起・包であり、己に従う。これらの小篆は𠂔²⁹⁵であり、もともと巳に隷定される。ゆえに起・包は逆に簡略化された俗字であり、今の混同された隷書の俗字に含まれない。

4. 『萬象名義』所出の呃・汜などの字は、巳の旁を巳に作る。この字形は「周憬功勳銘」の汜の字と同じである。顧諱吉は「汜本從巳。碑變從己(巳の誤り)²⁹⁵。」と言う。

5. 『萬象名義』所出の步・陟などの字は、歩の旁を歩に作る。この字形は「郟閣頌」の涉の字などの隷変字に由来する。涉の字において止の部分は山に変わっている。ゆえにこの歩の字は混同された隷書の俗字であると言える。

6. 『萬象名義』所出の𠂔²⁹⁶・獄などの字は、曷の旁を曷に作る。この字形は「唐扶頌」の曷の字などの隷変字に由来する。曷の字は曷における亡の傍の第一画が勺の傍の第一画に変わり、亡の残りの部分が匕の字に変わってできたものである。

7. 『萬象名義』所出の適・畜などの字は、商の旁を商に作る。この字形は「楊震碑」の適の字などと一致する。商の字は隷定の後に混同して商の字に変わったことがわかる。

8. 『萬象名義』所出の珉・氓などの字は、民の旁を民に作る。この字形は「華山廟碑」の民の字などと一致する。民の小篆の縦一画はもともと上方の口の形まで通っている。これが隷定字であり、よって今日の民の字は簡略化された俗字になる。民の字は隷定字にさらに一点を加えてできたものであり、この最後の三画は弋と同じである。ゆえにこの字は混同されたあるいは複雑化された隷書の俗字であると言える。

9. 『萬象名義』所出の頤・眠などの字は、氏の旁を氏に作る。この字形は「韓勅両側題」の氏の字などと一致する。この変化は民の字と同じく、最後の三画が弋に変わる。ゆえに氏の字も混同されたあるいは複雑化された隷書の俗字である。

10. 『萬象名義』は𠂔(坻)と𠂔(抵)の字を有し、氏の旁を氏(氏の複雑化された俗字)に作る。この字形は「唐扶頌」の底の字などの隷変字に由来する。顧諱吉は「唐扶頌」の項において「按、『説文』作底、從厂從氏、與砥同。碑變從氏²⁹⁶。」と言う。




11. 『萬象名義』所出の詣・楮などの字は、旨の旁を旨に作る。この字形は「白石神君碑」の旨の字と等しい。『説文』の旨の項は「从甘匕聲。」と言う。旨の字は、あるい

²⁹⁴ 『隸辨』101頁。



²⁹⁵ 『隸辨』159頁。

²⁹⁶ 『隸辨』85頁。

は旨の小篆における匕の旁が左右に開いて一になったのかもしれない。下方の甘の字は日の字に変わっている。


12. 『萬象名義』休・咻などの字は、木の旁を朮に作る。この字形は「楊震碑陰」の沐の字などの隸変字に由来する。顧藹吉は「楊震碑陰」の項において「按、碑蓋譌流為沐。流、水名也²⁹⁷。」と言う。術の字は「唐公房碑陰」、「衡方碑」、「侯成碑」などに作り、顧氏は「侯成碑」の項において「碑復變從木。」と言う。よって朮の二字は隸書においてすでに混同されていることがわかる。

13. 『萬象名義』所出の塹・暫などの字は、既の旁において无を无に作る。この字形は「史晨後碑」の既の字などと一致する。顧藹吉は「按、『説文』既從无。徐鉉曰、今隸変作无、與无字不同。碑譌從无。『經典釋文』序例云、將无混无、便成兩失²⁹⁸。」と言う。

『萬象名義』はまた (𠄎)  (𠄎)などの字が存在し、先の旁を无に作る。この変化は替の字と同じである。隸変の際に、先の字はまず无に変わり、その後既の字と同じように无に変わった。よってこの字もまた混同された隸書の俗字である。

14. 『萬象名義』所出の璿・鬱などの字は、替の旁を替に作る。この字形は小篆が隸定された後、先が無に変わり、さらに无が無に変わり(既の隸変と同じ)、最後に无が天に変わってできたものである。顧藹吉は「劉熊碑」の項において「按、『説文』潛從替、替從日從𠄎、𠄎從先、先即替字也。碑變作无、无讀若既、與先異²⁹⁹。」と言う。顧氏はまた「曹騰碑陰」の項において「按、『説文』譌從替。碑變從替。今俗因之³⁰⁰。」とも言う。よって天の旁はさらに夫の字に変わる。隸変字の中にこの替の字を見出すことはできないが、すでに「夏承碑」の潛の字が存在し、この字も隸変の時に作られたと考えることができる。

『萬象名義』𠄎・僭などの字は、替の旁をこの替の字にさらに横一画を加えて替とする。これは「夏承碑」の潛の字と同じであり、ゆえにこの字も混同された隸書の俗字である。

15. 『萬象名義』所出の從・髻などの字は、從の旁を𠄎に作る。この字形は「韓勅碑」の從の字に等しい。從の字は隸定の後、从の部分が「袁良碑」の從のように混同して草冠となり、その後さらに「史晨後碑」の從の字のように亼となる。止の部分は簡略化されて乚となる。この字形は「魏上尊號奏」の足の字³⁰¹ (𠄎)と同じである。

16. 『萬象名義』所出の薄・𠄎などの字は、𠄎の旁を𠄎に作る。この字形は「張納功德

²⁹⁷ 『隸辨』161頁。

²⁹⁸ 『隸辨』127頁。

²⁹⁹ 『隸辨』80頁。

³⁰⁰ 『隸辨』158頁。

³⁰¹ 『隸辨』165頁。

敘」の博の字などと一致する。小篆の専は上方の横一画が末尾で曲がっている。この部分が隷変の際に「韓勅碑」の博の字のように横一直線になる。この変化は求(𠄎)と同じである。専はさらに甬の旁が宙に変わる。この変化は専の字と同じである。

17. 『萬象名義』所出の厚・厭などの字は、厂の旁を宀に作る。この字形は「樊陽令楊君碑」の壓の字、「唐拂頌」の巖の字、「度尚碑」の厚の字などと一致する。顧藹吉は「度尚碑」の項において「碑復變厂從宀³⁰²。」と言う。ゆえにこの字は混同された隷書の俗字であることがわかる。

18. 『萬象名義』所出の臙・諷などの字は、眞の旁を眞に作る。この字形は「譙敏碑」の眞の字などと相似する。眞の字は隷変の際に、匕の傍の一画が移動して縦の一画に変わり、さらに一画が加わって止の字になった。

19. 『萬象名義』所出の郟・𠄎などの字は、亏の旁を于または干に作る。𠄎の字は隷定の際に下方が三本の横線になるが、隷変の際に「丁魴碑」の鄂の字のように横一画が省かれる。さらに縦一画が「楊淮碑」の鄂の字のように末尾が跳ね上がって于となる。

20. 『萬象名義』所出の𠄎・𠄎などの字は、𠄎の旁を雨に作る。この字形は「冀州從事郭君碑」の滿の字などと一致する。『萬象名義』所出の滿・𠄎などの字は、𠄎の旁を𠄎に作る。この字形は「堯廟碑」の滿の字とよく似る。顧藹吉は「穀阮碑陰」の項において「按、『説文』作滿從水從𠄎。𠄎從廿。五行之數二十分為一辰。兩𠄎平也。碑變從𠄎。³⁰³」と言う。顧氏は「堯廟碑」の項においてまた「按、滿從兩。兩與円通。碑變從雨³⁰⁴。」と言う。ゆえに雨𠄎の二字は混同された隷書の俗字であると言える。

21. 『萬象名義』は 𠄎 (𠄎) の字を有し、兩の旁を雨に作る。この字形は「魏受禪表」の兩の字と同じである。『萬象名義』はまた 𠄎 (𠄎) の字を有する。この字形は「周憬功勳銘」の兩の字などの隷変字と同じである。兩の字は隷変の際に雨の字に変化し、また中間の縦一画が上の横一画を突き抜ける。

22. 『萬象名義』所出の官・寵などの字は、宀の旁を宀に作る。この字形は「戚伯著銘」の官の字や「樊安碑」の寵の字などと一致する。顧藹吉は「按、即官字變宀為宀。他碑從宀之字、如字為宀、寵為 寵 之類甚多³⁰⁵。」と言う。

23. 『萬象名義』所出の歷・曆などの字は、麻の旁を麻に作る。この字形は「魏伯廟碑」の歴の字などと一致する。顧藹吉は「尹宙碑」の項において「按、『説文』歷從厂。碑變從广。」と言い、また「韓勅碑」の項において「按、『説文』歷從麻。麻從二禾、碑變從林。今俗因之。」と言う。

³⁰² 『隸辨』115頁。

³⁰³ 『隸辨』101頁。

³⁰⁴ 『隸辨』101頁。

³⁰⁵ 『隸辨』41頁。

25. 『萬象名義』所出の厥・逆などの字は、𠂔の旁を羊に作る。この字形は「白石神君碑」の逆の字などと一致する。

26. 『萬象名義』所出の健・𠂔などの字は、𠂔の旁を廾に作る。この字形は「北海相景君銘」の建の字などの隸変字に由来する。顧藹吉は「按、『説文』建從廾。碑變從廾。」と言う。

27. 『萬象名義』は勅(敕)と勅(整)の字を有する。顧藹吉は「繁陽令楊君碑」の項において「按、『説文』整從敕、敕從東。碑變作來。」と言ひ、「魏呂君碑」の項において「按、碑復變攴從力。『五經文字』云、敕、古勅字。今相仍皆作勅。唯整字從此敕、而此碑整字已變敕從勑矣。」と言う。『説文』は「勑(敕)、誠也。」と言ひ、金文の「勑 𠂔鼎」は「𠂔(勑)、『説文』所無。『集韻』誠也³⁰⁶。」と言う。この勑の字は敕の字の異体字である。高田忠周氏は「敕、今本作勑。隸譌勑為勑³⁰⁷。」と言ひ、馬叙倫は「敕、漢以後用勑字。似由勑而變。勑又由敕而變。然倫謂不得譌為勑³⁰⁸。」と言う。敕の字は金文においてすでに勑の字の異体字が存在する。その後、勑(chì)と勑(lài)の二字の字形がよく似ていることから勑は勑と混同され、勑はさらに勑と変わったわけである。ここからこの勑が混同された隸書の俗字であることがわかる。

『古文四声韻』の勑の項は「敕古文、𠂔『汗簡』、𠂔「雲臺碑」³⁰⁹。」とするが、これには誤りがある。金文によると、勑は敕の古文ではない。𠂔は隸定して敕(cè)となる。『説文』の敕の項は「擊馬也。」とする。ゆえに勑敕の二字は本来別々の字である。𠂔こそが勑の古文である。この古文と敕の小篆によれば、『五經文字』の勑の字が敕の古文であるという説も誤りである。『古文四声韻』の勑の項は、勑(lài)を勑(chì)の項の親字にしてしまっているのである。そして勑(chì)の項として、その項の中に『汗簡』の敕(cè)の古文も「雲臺碑」の勑(lài)の古文も存在させてしまっている。つまり勑(chì)・敕(cè)・勑(lài)の三字が勑(chì)の項において混ざってしまっているのである。

28. 『萬象名義』所出の𠂔・棘などの字は、束の旁を來に作る。この字形は「梁休碑」の棘の字などと一致する。顧藹吉は「按、即棘字碑變從來、與敕作勑同³¹⁰。」と言う。また顧氏は「史晨後碑」の項において「束、本作束(束)、有似於來、故致譌爾³¹¹。」とも言う。

『萬象名義』所出の𠂔・棘などの字は、束の旁を束に作る。この字形は「石經魯詩殘

³⁰⁶ 『金文編』902頁。

³⁰⁷ 『古文字詁林・3』654頁。

³⁰⁸ 『古文字詁林・3』654頁。

³⁰⁹ 『古文四声韻』83頁。

³¹⁰ 『隸辨』188頁。

³¹¹ 『隸辨』186頁。

碑」の棘の字などと一致する。顧藹吉は「石經魯詩殘碑」の項において「按、『説文』作棘、從並束。籀文束作 **束**。碑從籀文。俗譌從束³¹²。」と言う。

29. 『萬象名義』は **刺** (刺)や **刺** (刺)などの字を有し、束の旁を夾に作る。この字形は「魏上尊號奏」の刺の字などと一致する。顧藹吉は「按、『五經文字』云刺作刺、訛³¹³。」と言う。

30. 『萬象名義』所出の補・補などの字は、ネの旁をネに作る。この字形は「堯廟碑」の裕の字などの隸變字に由来する。顧藹吉は「按、『説文』裕從衣、碑變從示³¹⁴。」と言う。

31. 『萬象名義』所出の斑・庭などの字は、廷の旁を廷に作る。この字形は「鄭固碑」の庭の字などと一致する。庭の字は隸變の際に、壬の旁が手に変わり、廴の旁が廴に変わった。

32. 『萬象名義』所出の楔・齧などの字は、刀の旁を刃に作る。この字形は「桐柏廟碑」の絜の字などの隸變字に由来する。言うまでもなくこれは混同された隸書の俗字である。

33. 『萬象名義』は **梁** (梁)の字を有し、刃の旁を刃に作る。この字形は「桐柏廟碑」の梁の字などと一致する。顧藹吉は「按、『説文』梁從刃。碑變從刃³¹⁵。」と言う。

34. 『萬象名義』は **駭** (駭)と **驚** (驚)の字を有し、方の旁を手偏に作る。この字形は「尹宙碑」の族の字などの隸變字に由来する。旅や遊の字も同様である。

35. 『萬象名義』所出の儷・觀などの字は、麗の旁を麗に作る。この字形は「張納功德敘」の麗の字などと一致する。

36. 『萬象名義』所出の玕・婣などの字は、干の旁を于に作る。この字形は草書の中に見られるが、実は「孔宙碑」の刊の字のように隸變字においてすでに見られる字形である。

『萬象名義』はまた押・胛などの字において、甲の縦一画を跳ねる。この字形は干の字の変化に似る。しかし隸書の中にも草書の中にもこの字形の甲の字を見ることはできず、出所が不明である。

37. 『萬象名義』は **訴** (訴)や **沂** (沂)の字を有し、斥の旁を斥に作る。顧藹吉は「曹全碑」の項において「按、斥字『説文』本作席、從广從聿。碑變從干。『五經文字』、滸、沂、經典相承隸省、凡訴之類皆從斥。」と言う。『萬象名義』の沂の字は干の旁が于の字に変わっている。これも「36. 于=干」の「孔宙碑」に見たように、混同された隸書の俗字である。

³¹² 『隸辨』 188 頁。

³¹³ 『隸辨』 122 頁。

³¹⁴ 『隸辨』 129 頁。

³¹⁵ 『隸辨』 56 頁。

38. 『萬象名義』所出の奞・隹などの字は、奞の旁を奞に作る。この字形は「高彪碑」の隹の字などの隸変字に由来し、奞は上方がウ冠に変わる。
39. 『萬象名義』所出の鄴・諤などの字は、參の旁を彖に作る。この字形は「曹全碑」の諤の字などの隸変字に由来する。顧藹吉は「按、從參之字諸碑或變作彖、如珍為珍、軫為軫之類甚多。故參亦作彖³¹⁶。」と言う。
40. 『萬象名義』所出の跖・痲などの字は、段の旁を段字に作る。この字形は「孔彪碑」や「劉熊碑」の暇の字などの隸変字に由来する。
41. 『萬象名義』は 𡵓 (𡵓)や 𡵓 (𡵓)の字を有し、山の旁を六に作る。「桐柏廟碑」の𡵓の字と比べて、『萬象名義』が冏の旁の儿を省く以外はこれと同じである。この字は「張公神碑」と似る。
42. 『萬象名義』は 𦍋 (職)字と 𦍋 (耽)の字を有し、耳の旁を身に作る。この字形は「陳球後碑」の聘の字などと一致する。顧藹吉は「按、聘字碑變從身。鄭季宣碑 𦍋 君之孫、聘亦作 𦍋³¹⁷。」と言う。『宋本玉篇』は「耽、俗耽字。」と言う。
43. 『萬象名義』は 𦍋 (趣)と 𦍋 (極)の字を有し、又の旁をくの形に作る。この字形は「李翊碑」の取の字などと一致する。顧藹吉は「按、『説文』取從耳從又。碑譌作 𦍋。𦍋即取字。從耳下垂。讀若輒。與取異³¹⁸。」と言う。よってこの字は混同された隸書の俗字である。
44. 『萬象名義』は 𦍋 (考)の字を有する。この字形は「北海相景君銘」の考の字と同じであり、隸変の際に𠂔の部分に丁に変化した。
45. 『萬象名義』は 𦍋 (廉)の字を有し、广の旁を𠂔に作る。顧藹吉は「按、『説文』廉從广。碑變從𠂔³¹⁹。」と言う。
46. 『萬象名義』は 𦍋 (悉)の字を有する。この字形は「帝堯碑」の悉の字などと一致する。顧藹吉は「按、『説文』悉、從采。碑變從米³²⁰。」と言う。悉の字は隸変の際に采の旁が米に変化した。
47. 『萬象名義』は 𦍋 (協)と 𦍋 (博)の字を有する。これらの十の旁は、魏・鍾繇「宣示表」の博の字と同じく立心偏に作る。十の旁は「孫根碑」の博の字に見るように、隸変字においてすでに心の旁に変わる。顧藹吉は「按、『説文』博字從十。碑譌從心³²¹。」と言う。
48. 『萬象名義』は 𦍋 (履)・𦍋 (屨)・𦍋 (屨)などの字を有し、彳の旁を斗に作

³¹⁶ 『隸辨』78頁。

³¹⁷ 『隸辨』154頁。

³¹⁸ 『隸辨』93頁。

³¹⁹ 『隸辨』79頁。

³²⁰ 『隸辨』167頁。

³²¹ 『隸辨』179頁。

る。この字形は「衡方碑」の履の字などの隸変字に由来する。顧藹吉は「按、碑復變イ為彳³²²。」と言う。

49. 『萬象名義』は **𠂔** (𠂔) の字を有し、𠂔の旁を幸に作る。この字形は「高彪碑」の勢の字などと一致する。顧藹吉は「按、勢從執。碑變從執³²³。」と言う。

50. 『萬象名義』は **𠂔** (𠂔) の字を有し、𠂔の旁を𠂔に作る。この字形は「張平碑」の藻の字と一致する。𠂔は隸変の際に木の旁が彳の俗字 (彳) に変化した。

51. 顧藹吉は「『説文』作彳、從晶從彳。重文作彳。(中略)『説文』彳部無彳字。『玉篇』有之。隸変品為彳、故『玉篇』收入彳部。注云、千含切。又所今切。星名。亦作彳。則知彳彳為一字也。³²⁴」

『説文』の小篆は彳に作り、上方は三個の円形に作る。小篆から隸定へ変化する過程における特徴の一つは、曲から直への変形である。小篆の円形は隸定の際に、ある字は四角形に、ある字は三角形に変化した。よって「楊著碑」の彳の字は小篆彳の隸定字であると理解することができる。

『萬象名義』は **彳** (彳) の字を有する。この彳の旁はまさに「北海相景君銘」の彳の字と等しい。顧藹吉は「按、從彳之字諸碑或變作彳、如珍為珍、軫為瑜之類甚多。故彳亦作彳³²⁵。」と言う。

(四)、同化された俗字

1. **𠂔** (𠂔)・**𠂔** (𠂔) などの字は、需の旁を需に作る。この字形は「衡方碑」の儒の字などの隸変字と一致する。需の上方の雨の旁は下の旁と同化して而になった。

『萬象名義』所出の𠂔・𠂔などの字は、𠂔の旁を需に作る。この字形は需の隸変字と等しい。金文の「孟簋」における需の字は **𠂔**³²⁶ に作り、下は人の形に従う。一方、需の字は「魯峻碑」における儒の字 **𠂔** のように隸変して𠂔になる。顧藹吉は「獮韻・魯峻碑」の項において「借作儒字。互見虞韻³²⁷。」と言う。また『周礼・考工記・鮑人』は「欲其柔滑、而脛脂之、則需。」と言う。需は𠂔と同じであり、柔軟の意である³²⁸。おそらく𠂔と需の二字が混同されたために、𠂔の字も俗化して需となったのであろう。

³²² 『隸辨』 87 頁。

³²³ 『隸辨』 135 頁。

³²⁴ 『隸辨』 78 頁。

³²⁵ 『隸辨』 78 頁。

³²⁶ 『金文編』 753 頁。

³²⁷ 『隸辨』 103 頁。

³²⁸ 『王力古漢語字典』 1614 頁。

(五)、位置が移動された俗字

1. 『萬象名義』所出の影・形などの字は三撇(彡)を彡に作る。この字形は「張平子碑」における彫の字と一致する。

(六)、草書の楷書化された俗字

1. 『萬象名義』所出の偽・媯などの字は為の旁を為に作る。この字形は王羲之・集字聖教序」の為の字などの筆勢と等しい。ゆえにこの字は草書の楷書化された俗字である。
2. 『萬象名義』所出の佚・朕などの字は央の旁を央に作る。この字形は唐・褚遂良「王羲之蘭亭序」に似る。この央の字は草書の楷書化された俗字である。
3. 『萬象名義』所出の𠄎・契などの字は刃の旁を刃に作る。この刀は刃に変わった後、魏・「元端墓誌」における契の字や齊・「韓永義造佛龕銘」における契の字のように刃の旁が執と混同される。また圭の旁が簡略化されて魏・「元襲墓誌」や魏・「劉玉墓誌」における勢の字のように圭または圭となる。これを草書で書くと、東晋・王羲之「大観帖」における熱の字のようになり、この字形は「集字聖教序」のように草書の生の字とよく似る。隋・智永「千字文」の絜の字における楷書の丰の旁はまた生の字と似る。ゆえにこの刃の字は隸書において混同され(て刃になっ)た、また楷書において混同され(て圭の俗字になっ)た、また草書が楷書化され(て生になっ)た俗字である。
4. 『萬象名義』所出の𠄎・拵などの字は、介の旁を分(分)に作る。この字形は隋・智永「千字文」における分の字と同じである。介の字と分の字の草書が智永「千字文」における芥の字と分の字のようによく似るため、おそらく介の字が分の字と混同したのであろう。
5. 『萬象名義』所出の瞳・觀などの字は、瞿の旁を瞿に作る。これは「妙法蓮花經・觀世音頌聖図」における觀の字と同じである。この字形は草書の「蘭亭敘」や「漢時帖」における觀の字に由来する。
6. 『萬象名義』は 𠄎(𠄎)・ 𠄎(𠄎)などの字を有する。この字形は「雙恩記」における弱の字と同じであり、草書の楷書化された俗字である。苟と豸は草書で書いた場合、東晋・王羲之「名臣」における敬の字と隋・智永「千字文」における弱の字のように、その字形がよく似る。よってこれらは草書が楷書化される際に混同されたことがわかる。
7. 『萬象名義』は 𠄎(荒)の字を有する。この字形は隋・智永「千字文」における荒の字などの草書に由来する。一目瞭然で、この字は草書の楷書化された俗字であることがわかる。ただし『萬象名義』の荒の字は亡の旁において一画抜けており、これはおそらく高山寺本の書写人の誤写であろう。
8. 『萬象名義』所出の饜・𠄎などの字は虎の旁を帝に作る。虎の字と帝の字は草書で書

くと、王羲之「大観帖」における虎の字と王献之「万歳通天進帖」における帝の字のようによく似る。ゆえに草書の虎の字が楷書化の際に帝の字と混同したと考えられる³²⁹。

10. 『萬象名義』所出の能・態などの字は、能の旁を𠂔に作る。能の字は隸定の後、晋代に至って草書で書く際に、王羲之「集字聖教序」における能の字のように右の旁において上下の縦線が繋がる。この草書を楷書化すると王羲之「黄庭経」における能の字になる。

(七)、行書

1. 『萬象名義』所出の銳・兪などの字は、兪の旁を兪に作る。この字形は「集字聖教序」における説の字のように行書である。口の字は隸変の際に三角形に変わり、その後またムに変わる。そしてムと下の儿の字を行書で書いたとき、両者が繋がって兪の字形になる。
3. 『萬象名義』所出の珣・叔などの字は叔の旁を𠂔に作る。この字形は「淳化閣帖」や「行書千字文」における叔の字などの行草書に由来する。叔の字は隸定の後、草書で書くと舛の字に似る。この左の部分は草書の楷書化に由来し、夕の字に似る。右の部分は十の字と二点になり、これは行書に由来する。『萬象名義』における叔の字は下に二点しかなく、一方「行書千字文」のそれは三点ある。この三点は草書で書くと一線になり消滅する。よってこの𠂔の字は行書と草書の楷書化された俗字であると言えるだろう。

<参考文献>

- 王力主編『王力古漢語字典』中華書局, 2000.
- 杭迫柏樹編『王羲之書法字典』二玄社, 2002.
- 顧藹吉編撰『隸辨』中華書局, 1986, (再版 2003).
- 黄征著『敦煌俗字典』上海教育出版社, 2005.
- 孔仲温著『玉篇』俗字研究』学生書局, 2000.
- 弘法大師著作研究会『定本弘法大師全集 9』密教文化研究所, 1995.
- 古文字詁林編纂委員会『古文字詁林 3』上海教育出版社, 2001.
- 秦公輯『碑別字新編』文物出版社, 1985.
- 施安昌編『顔真卿干祿字書』紫禁城出版社, 1992.
- 中華書局編輯部『汗簡・古文四声韻』中華書局, 1982.

³²⁹ 由明智〔2002〕143頁参照。

段玉裁注『説文解字注』上海古籍出版社, 2001.

陳煒湛・唐鈺明編著『古文字学綱要』中山大学出版社, 1988.

湯餘惠主編『戦国文字編』福建人民出版社, 2001.

林宏元主編『中国書法大字典』中外出版社, 1979.

谷庚編著・張振林・馬国権纂補『金文編』中華書局, 1985.

由明智『『篆隸萬象名義』的異体字研究』北京師範大学博士学位論文, 2002.

〈キーワード〉『篆隸萬象名義』, 俗字, 『隸辨』, 『碑別字新編』